

複数のHTML&テキストファイルを一括置換

TextSS.net Version 5.23

操作説明書

Text Search and Substitute .net

Copyright 1998-2022 By Yamashita-Y

複数の HTML やテキストファイルを改行も含めて一括置換するフリーソフトです。Meta タグと独自方法の2つの方法でコードページの判定を行います。これにより、日本語以外の複数バイト文字を使った HTML ファイルも置換することができます。また通常のテキストファイルも日本語に限り S-JIS/JIS/EUC/UTF-8/16/32 の判定が行います。置換機能においてはワイルドカードを使ったあいまい検索、正規表現を使った複雑な置換に対応し、それらをパターンリストとして登録することで、複数の置換を同時に行えます。

※本書は、文字コードをコードページと表記しています。

目次

1. TextSS.net のインストールと起動方法	4
1-1. システム要件	4
1-2. インストール方法	4
1-3. 起動方法	4
1-4. 初回起動時のかんたん設定画面	5
2. 簡略操作説明と簡単レッスン(3つのステップでファイルを置換する)	6
2-1. ファイルリストに置換したいファイルを登録する	6
2-2. 検索する文字列と置換する文字列を登録する	7
2-3. 置換の開始	8
2-4. 簡単レッスン	10
2-4-1. TextSS.net を起動します。	10
2-4-2. 置換するファイルの拡張子を選択または入力します。	10
2-4-3. 拡張子が決まったら置換するファイルを登録します。	11
2-4-4. 登録したファイルを確認します。	12
2-4-5. ファイルの中身を確認します。(この操作は省略可能)	12
2-4-6. 検索する文字列と置換する文字列を登録します。	13
2-4-7. 思うように置換できるかテストします。(この操作は省略可能)	13
2-4-8. 2つ目の置換内容を登録する準備をします。	15
2-4-9. 2つ目の置換内容を登録します。	15
2-4-10. 置換の動作設定を行います。	16
2-4-11. 置換を開始します。	16
2-4-12. 置換候補の確認を行います。	17
2-4-13. 置換結果の確認をします。	18
3. ファイルリスト	19
3-1. 操作パネル	19
3-2. ファイルリスト	20
3-3. ステータス	22
3-4. ポップアップメニュー(右クリック)	22
3-5. プレビュー	24
3-6. TextSS.net で開く	25
3-7. 特殊操作(拡張子の置換)	26
3-8. 特殊操作(バックアップの削除)	27
3-9. 特殊操作(ゴミ箱の強制削除)	28
3-10. ファイルとバックアップを WinMerge で比較する	29
4. 検索と置換の文字列	30
4-1. 検索と置換の文字列	31
4-1-1. 置換方法	31
4-1-2. コメント	31
4-1-3. オプションスイッチ	32
4-1-4. ボタンとラベル	34
4-1-5. キー操作	35
4-2. 置換方法 文字列の置換(通常)	35
サンプル1	35
サンプル2 失敗例	35

4-3. 置換方法 文字列の置換(ワイルドカード)	36
サンプル1	37
サンプル2	37
4-4. 置換方法 文字列の置換(正規表現)	38
サンプル1	40
サンプル2	40
サンプル3	40
4-5. 置換方法 特殊変換	41
4-6. 置換方法 バイナリー置換	42
4-6-1. 文字列をそのまま入力する	42
4-6-2. 16進数を直接入力する	42
4-6-3. バイナリー置換の入力補助	42
4-7. テストエリア	43
4-8. 検索と置換のパターンリスト	44
4-8-1. パターンリストの列	44
4-8-2. 行の操作とポップアップメニュー(右クリック)	45
4-8-3. コピー&ペースト及びインポート／エクスポートの注意事項	45
4-8-4. 編集している検索と置換のパターンリスト	47
5. 置換の開始	48
5-1. 置換の実行方法の指定	48
5-2. 置換候補確認時の操作	49
5-3. 置換候補の確認	49
5-4. ファイルリストで置換結果を確認	50
6. 設定画面	52
6-1. 動作設定1 基本設定	52
6-2. 動作設定1 詳細設定	54
6-3. 動作設定2	56
6-4. 除外フォルダとファイル	57
6-5. NKF32 コード判定	57
6-6. NKF32 コード変換	57
6-7. コードページ設定	58
6-8. コードページ一覧	59
6-9. TextSS.net	59
7. 補足説明	60
7-1. コマンドラインオプション	60
7-2. TextSS.net バー	60
7-3. TextSS.net ウェイトバー	61
7-4. マルチスレッド処理(ファイルリストと置換処理)	62
7-5. マルチスレッド処理(処理の実行順)	63
8. サポート	64

1.TextSS.net のインストールと起動方法

1-1.システム要件

サポートされているオペレーティング システム

Windows Windows 8 / 7 / VISTA / XP SP3

動作に必要なソフト

・なし

※ただし、Microsoft .NET Framework 4 を意図的に無効にしている場合は有効にしてください。

※PDF の操作説明書(本誌)を見る場合は Adobe Reader など PDF を表示できるソフトが必要です。

ハードウェア要件

最小限の推奨要件 : Pentium 1.6 GHz 以上、256 MB 以上の RAM (空きメモリ)

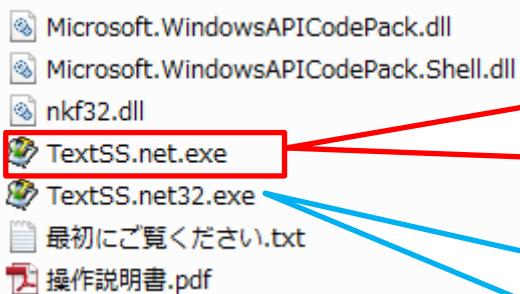
ディスクの最小空き容量: 10 MB 以上の空き容量(別途、バックアップ分の空き容量が必要)

1-2.インストール方法

TextSS.net はインストールの必要はありません。ダウンロードしたファイルを解凍すればすぐに利用可能です。

1-3.起動方法

TextSS.net は、ダウンロードして解凍するといくつかのファイルが現れます。初期は下記の通りですが、使用していくとログフォルダなどが作成されます。起動するには2つのファイルからどちらか選んで起動させます。デスクトップにショートカットを作成しておくとも便利です。ショートカットは TextSS.net を右クリックして、『送る』の中の『デスクトップ(ショートカットを作成)』で作ることができます。



※.exe などの拡張子は表示されない場合があります。

通常はこれを使用してください。

Windows の動作ビットに合わせて32ビットと64ビットを判断して起動します。OS が32ビットであればTextSS.net も32ビット、OS が64ビットであれば TextSS.net も64ビットで起動します。

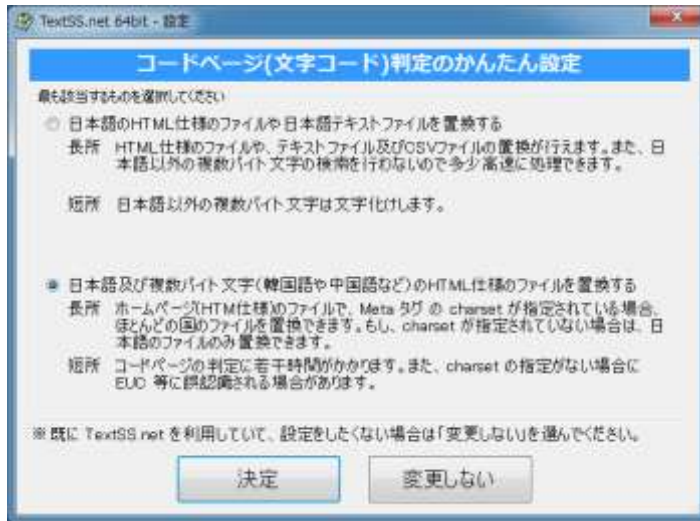
上級者向け。

TextSS.net を常に32ビットで起動します。64ビット OS 上で、強制的に32ビットで起動させます。64ビット OS で nkf32.dll を使用する場合に使用します。

※将来廃止される場合があります。

1-4.初回起動時のかんたん設定画面

TextSS.net Ver 5.20 以降は、初回起動時にコードページ判定のかんたん設定画面が表示されます。画面の説明を参照し、どちらか選択してください。この画面は、設定画面の『6-7. コードページ設定』の『かんたん設定』でいつでも表示させることができます。

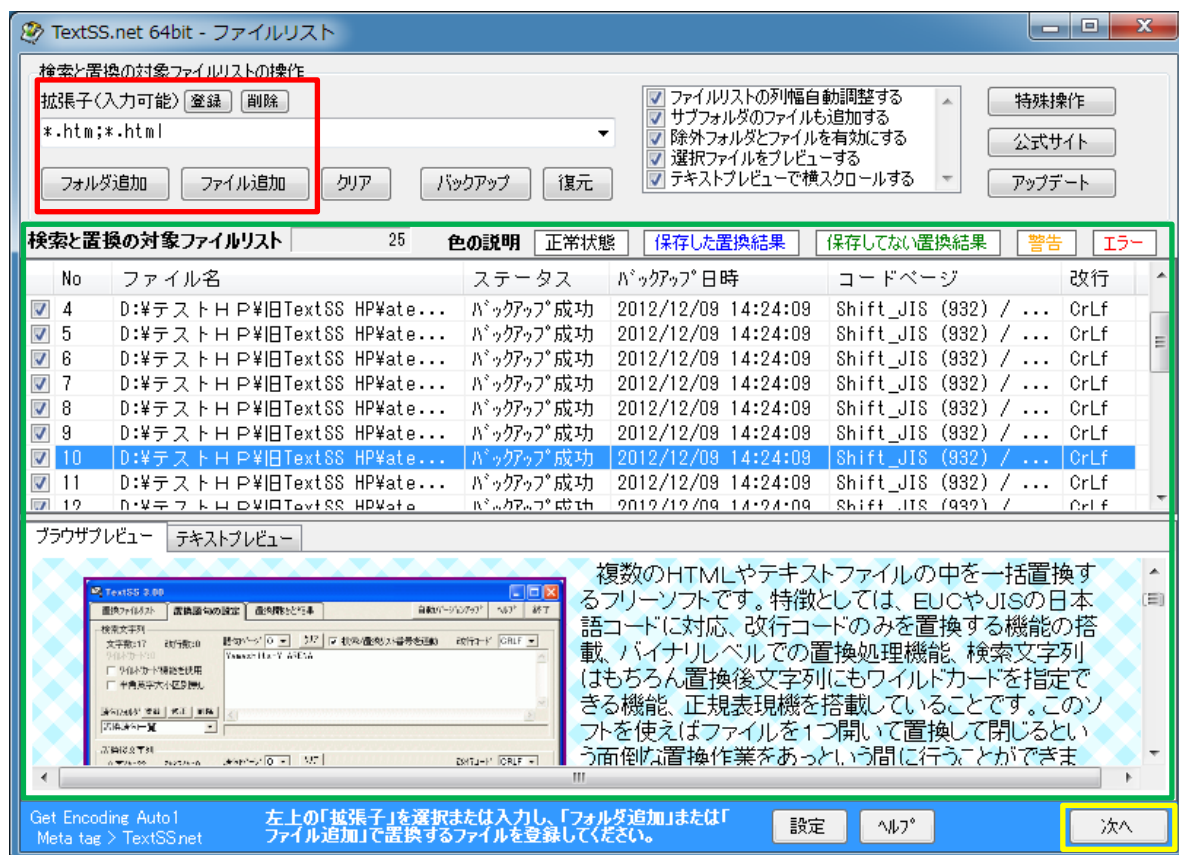


日本語の HTML ファイルや日本語テキストファイルを置換する場合は上段、日本語及び複数バイト文字 (韓国語や中国語など) の HTML ファイルを置換する場合は下段を選択してください。複数バイト文字のテキストファイルはコードページを自動判定することができません。この場合は直接指定すれば置換することができます。

2.簡略操作説明と簡単レッスン（3つのステップでファイルを置換する）

まず、基本的な3つの操作を説明します。応用的な使い方は省略しています。

2-1.ファイルリストに置換したいファイルを登録する

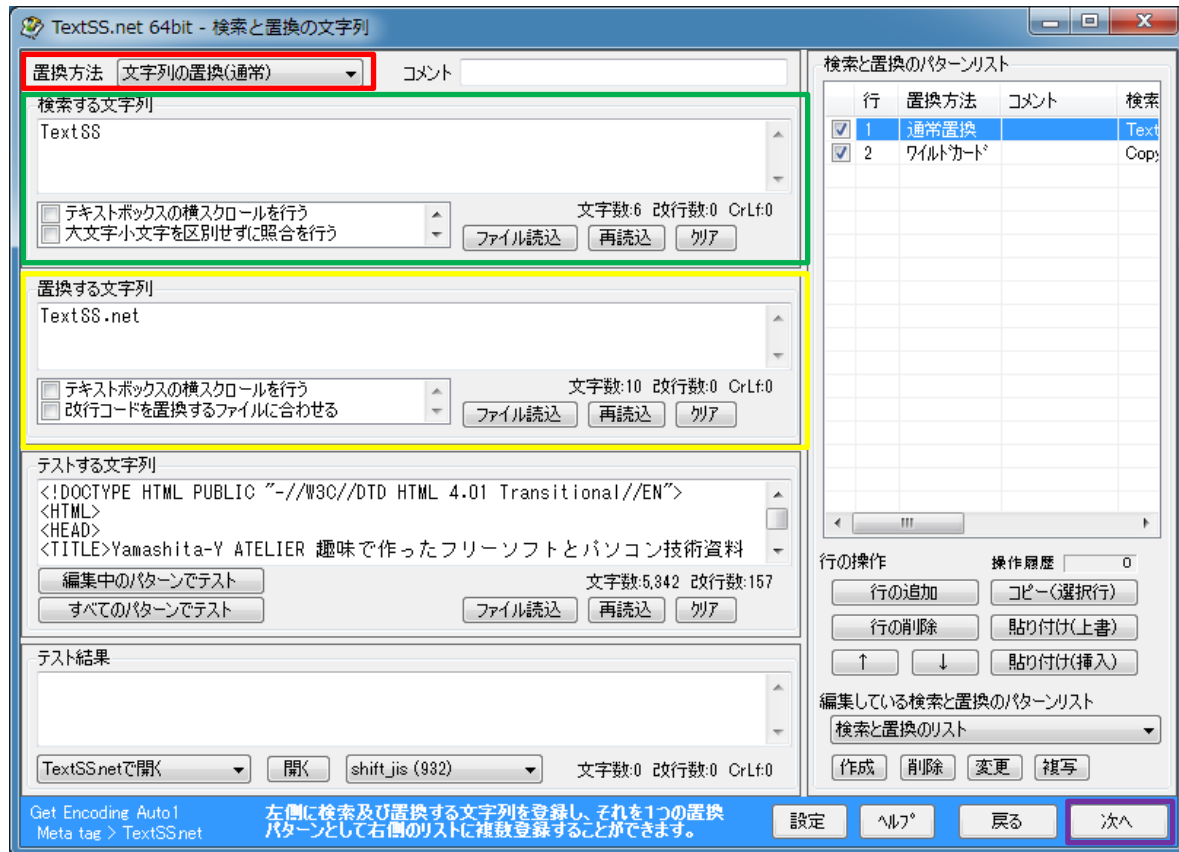


- ①赤枠の「拡張子」を入力またはリストから選択します。
- ②赤枠の「フォルダ追加」または「ファイル追加」で置換するファイルを登録します。
- ③緑枠の部分にファイルが表示されます。選択すると下部にプレビューが表示されます。
- ④黄枠の「次へ」を押下して、次の画面に進みます。

■その他の機能■ 下記の機能は各章の詳細な説明を参照してください。

- ・手動でのバックアップが行えます。（置換の途中でバックアップする場合に使用する）
- ・復元が行えます。（置換に失敗した場合にファイルを復元できます）
- ・拡張子を登録し、次回起動時にデフォルト表示させることができます。
- ・公式サイトの表示やアップデートを確認することができます。
- ・ファイルリストを CSV ファイルとして保存することができます。
- ・あらかじめ登録したアプリケーションでファイルを開くことができます。
- ・バックアップしたファイルを復元せずに表示させることができます。

2-2. 検索する文字列と置換する文字列を登録する



①赤枠の「置換方法」を選択します。(ここでは文字列の3つの置換方法のみ説明します)

通常	記号も通常の文字として扱い、置換を行います。
ワイルドカード	ワイルドカードを使い、あいまいな検索と置換を行います。 検索する文字列に記号で、* は0文字以上の文字、# は1文字の数字、? は1文字の文字を示します。置換する文字列では、\$1 で検索する文字列の1つ目のワイルドカードの該当内容になり、指定した数だけ \$2、\$3 と指定できます。\$0 は該当部分すべてという意味になります。 置換する文字列で指定する \$ は、TextSS.net で独自に拡張したものです。一般的なワイルドカードに \$ は存在しません。
正規表現	.NET Framework で提供される Perl5 相当の正規表現を使った置換が行えます。置換 (Replace) をサポートしています。

②緑枠に検索する文字列を指定します。

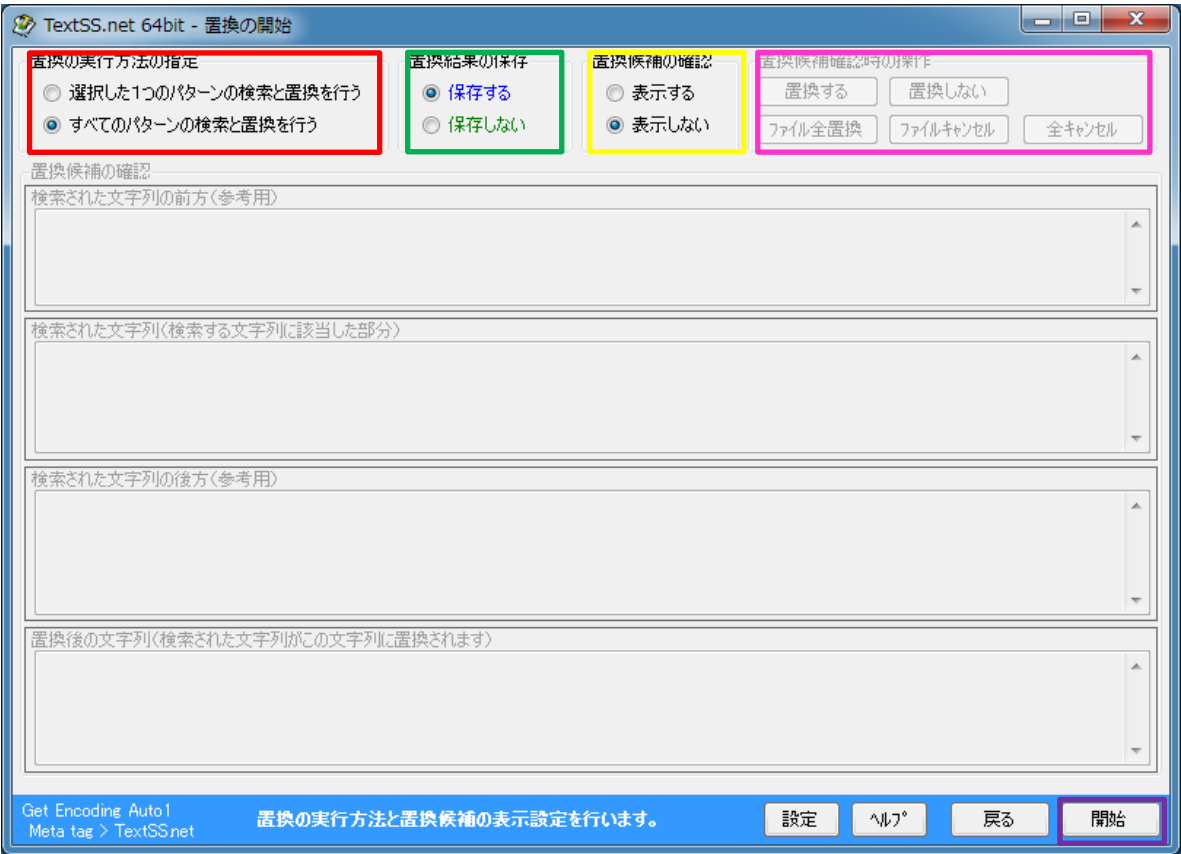
③黄枠に置換する文字列を指定します。

④紫枠の「次へ」を押下して、次の画面に進みます。

■その他の機能■ 下記の機能は各章の詳細な説明を参照してください。

- ・テストする文字列で実際に置換を行い、結果を確認するテスト機能があります。
- ・テスト結果をブラウザで表示させることができます。
- ・特殊変換で大文字小文字、全角半角などを変換が行えます。
- ・パターンリストで複数の置換を一括実行することができます。
- ・パターンリストでコピー & ペーストが行え、エクセルなどで加工することができます。
- ・パターンリストのインポート/エクスポートが行えます。
- ・パターンリストを複数作成し、切り替えることができます。
- ・パターンリストで「元に戻す」及び「やり直し」が行えます。

2-3.置換の開始



①赤枠の置換の実行方法の指定を選択します。

選択した1つのパターンの検索と置換を行う	検索する文字列と置換する文字列に入力した内容で置換を行います。
すべてのパターンの検索と置換を行う	パターンリストに登録したスイッチが ON の置換を一括実行します。

②緑枠の置換結果の保存を選択します。

保存する	置換結果をファイルに保存します。 ファイルリストの置換結果は青文字で表示されます。
保存しない	置換結果をファイルに保存しません。(検索のみ) 置換の該当部分が何個あるか確認する場合に使用します。 ファイルリストの置換結果は緑文字で表示されます。

③黄枠の置換候補の表示を選択します。

表示する	置換を開始した時に、見つけた置換候補とその前後の文字列を表示します。
表示しない	画面に表示せず、一気に置換します。

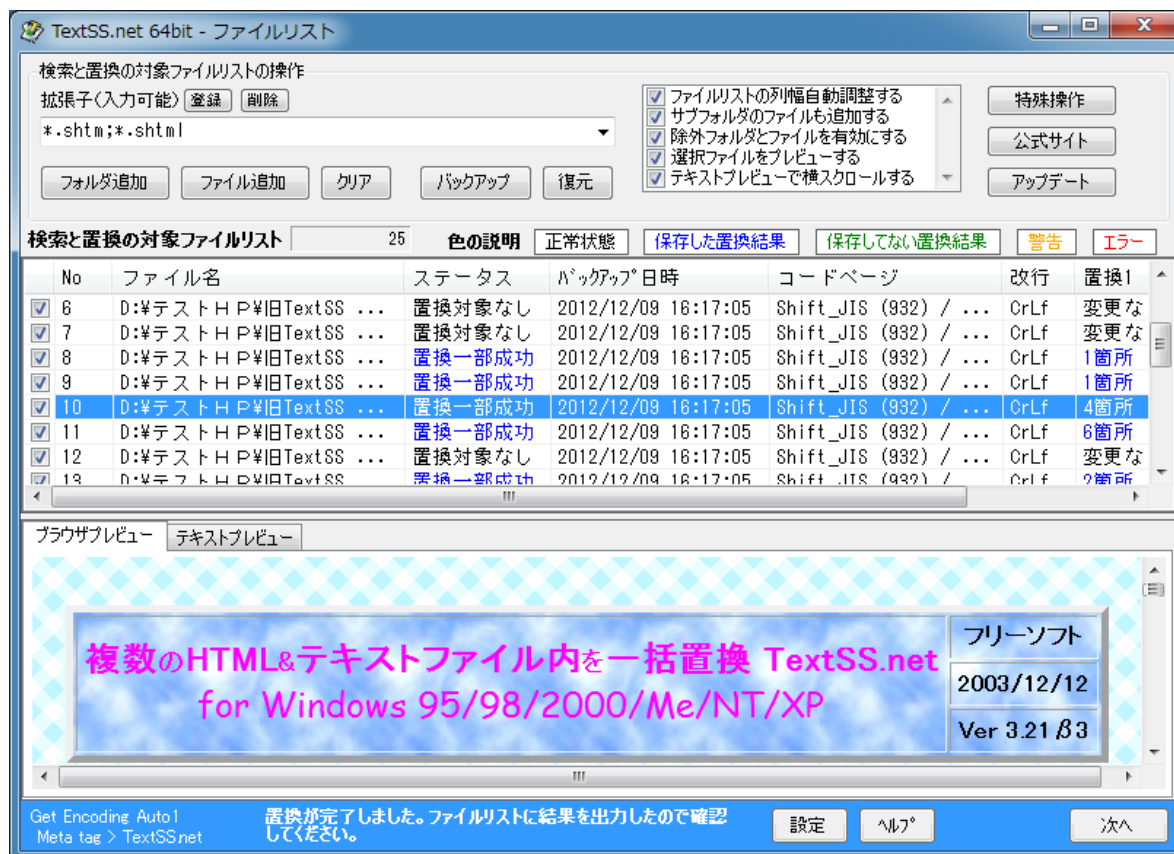
④紫枠の「開始」を押下して、置換を開始します。

⑤上記③の置換候補を「表示する」にした場合、置換候補発見時に桃枠のボタンで操作を行います。

置換する	画面の内容の通り置換を行います。
置換しない	置換せず、次の検索に進みます。
ファイル全置換	現在検索と置換しているファイルに対する置換をすべて実行して、次のファイルの置換に進みます。
ファイルキャンセル	現在検索と置換しているファイルに対する置換をすべてキャンセルして、次のファイルの置換に進みます。
全キャンセル	すべての置換をキャンセルします。既に置換が行われて保存されたファイルはそのままになるので注意してください。

⑥置換結果の確認。

置換が完了すると、ファイルリストに置換結果が表示されます。文字の色の説明は画面上に表示されています。



プレビューやブラウザで置換結果を確認します。

失敗した場合は「復元」で元に戻すことができます。

※TextSS.net を終了すると元に戻せなくなるので十分に確認してください。

2-4. 簡単レッスン

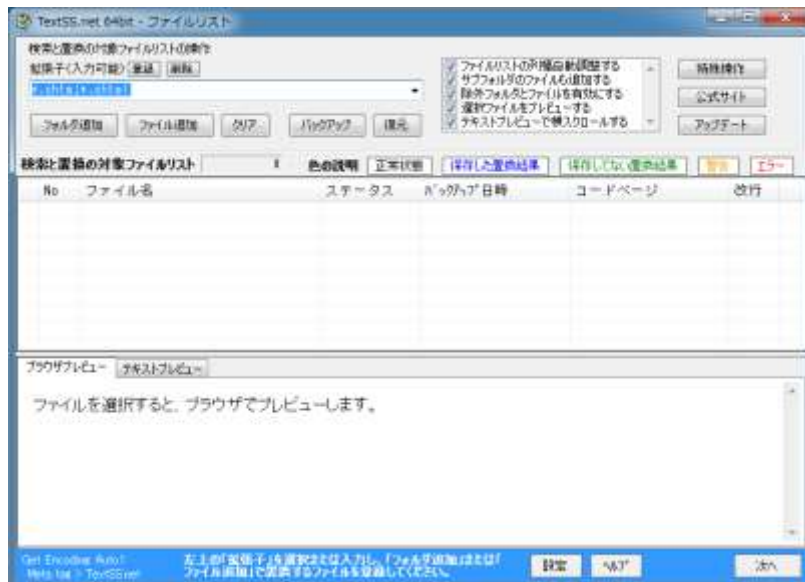
ここでは、複数の HTML ファイルを下記のように置換する例を説明します。

- ・『TextSS』を『TextSS.net』に単純置換する。
- ・ワイルドカードを使い、『Copyright』の次にある『数字4桁-数字4桁』の前の数字は残し、後ろの数字を『2011』に置換する。

2-4-1. TextSS.net を起動します。

ダウンロードしたフォルダの「TextSS.net」をダブルクリックします。

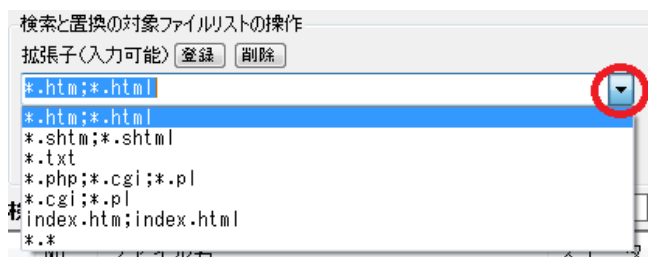
起動すると、下記の画面が表示されます。この画面は置換するファイルを登録する画面です。



2-4-2. 置換するファイルの拡張子を選択または入力します。

ホームページの場合は *.htm または *.html が一般的な拡張子です。

拡張子を一覧から選択する場合は赤枠の矢印をクリックします。



拡張子を入力する場合は赤枠の部分に直接入力してください。

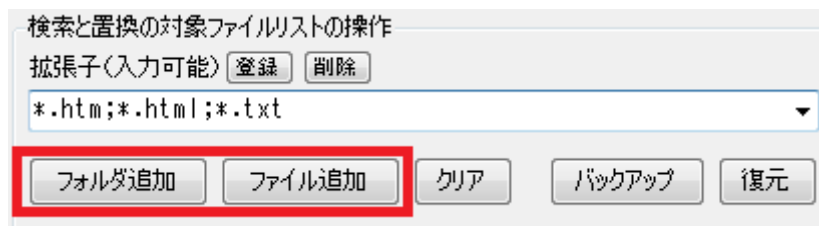
よく使う拡張子は登録ボタンで登録すると、次回起動時にデフォルト表示させることができます。

また、複数の拡張子を入力する場合はセミコロン ; で区切って入力します。



2-4-3. 拡張子が決まったら置換するファイルを登録します。

フォルダを指定してフォルダの中のサブフォルダ(フォルダの中のフォルダ)のファイルを登録するか、ファイルを1つ又は複数選択して登録します。どちらかのボタンをクリックします。



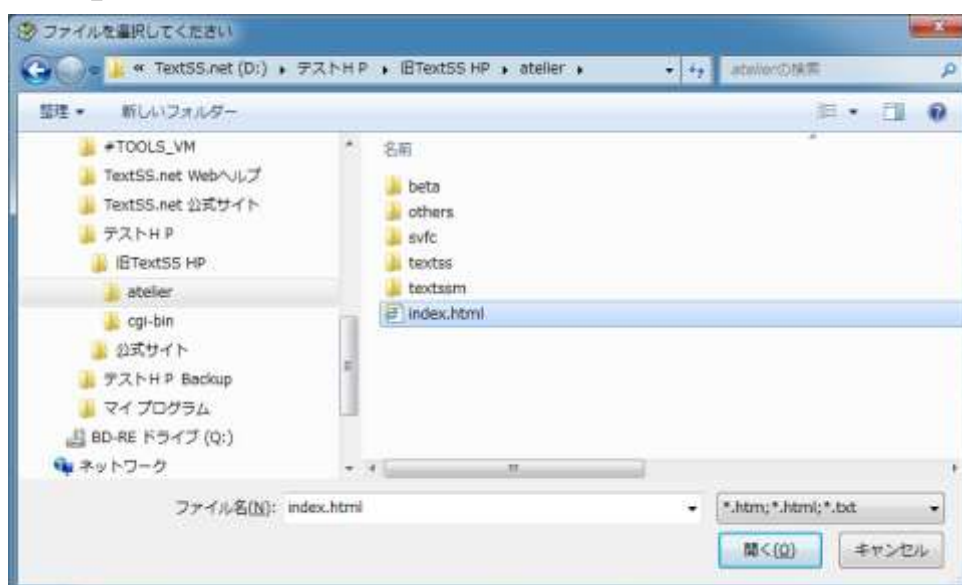
※ファイルリストにエクスプローラからフォルダやファイルをドラッグ & ドロップで登録することも可能です。

『フォルダ』ボタンのクリック時



置換したいファイルが存在するフォルダを選択します。

『ファイル』ボタンのクリック時

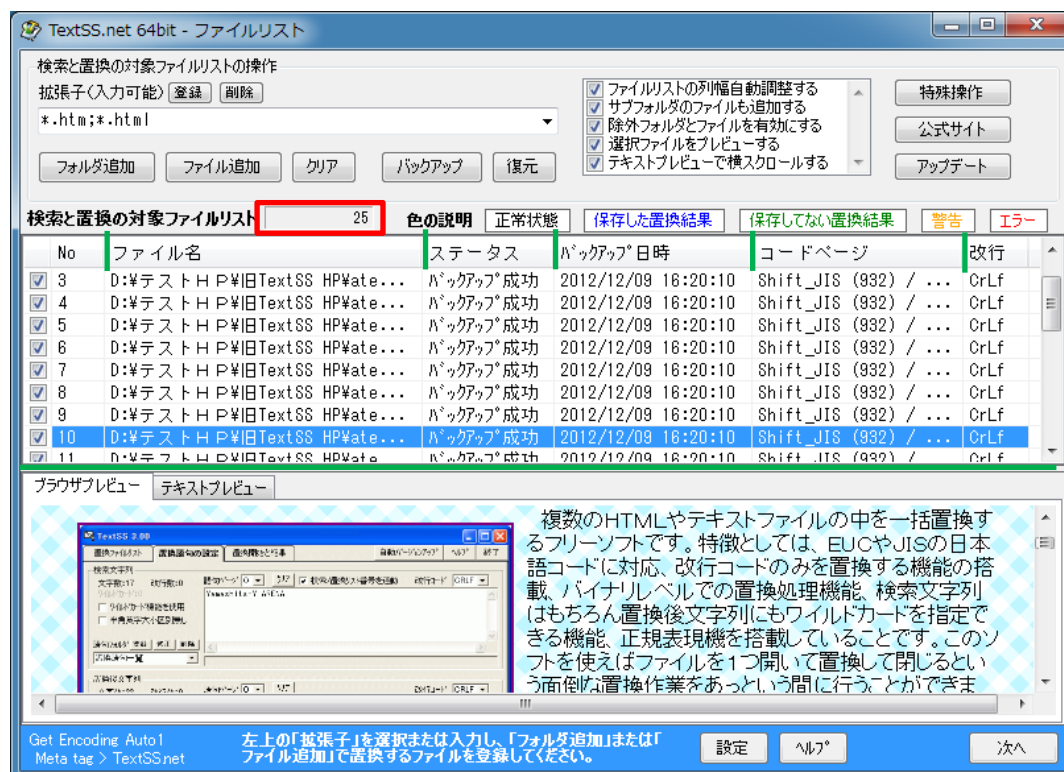


置換したいファイルを選択します。Ctrl キーを押下しながらクリックすると複数選択でき、Shift キーを押下しながらクリックすると範囲選択できます。

2-4-4.登録したファイルを確認します。

赤枠の部分に登録されたファイル数が表示されます。また、緑線の部分をドラッグ(クリックしたまま)で上下左右に移動するとレイアウトを変更することができます。

ファイルを選択するとプレビュー表示することができます。

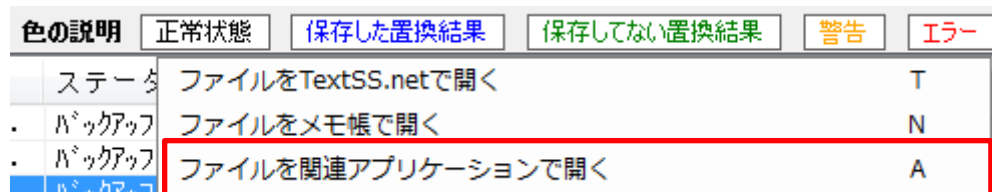


※ファイルリストにエクスプローラからフォルダやファイルをドラッグ&ドロップで登録することも可能です。

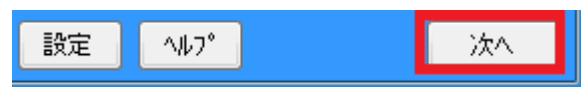
※プレビューはBGM再生禁止など制限事項があります。詳細は『3-5. プレビュー』を参照してください。

2-4-5.ファイルの中身を確認します。(この操作は省略可能)

この操作は確認作業なので省略可能です。省略する場合は画面右下の『次へ』をクリックして次に進んでください。ファイルリストでファイルの中身を確認する場合はそのファイルをクリックするか、右クリックして『ファイルを関連アプリケーションで開く』を選択します。



確認後、TextSS.net の画面右下の『次へ』をクリックします。

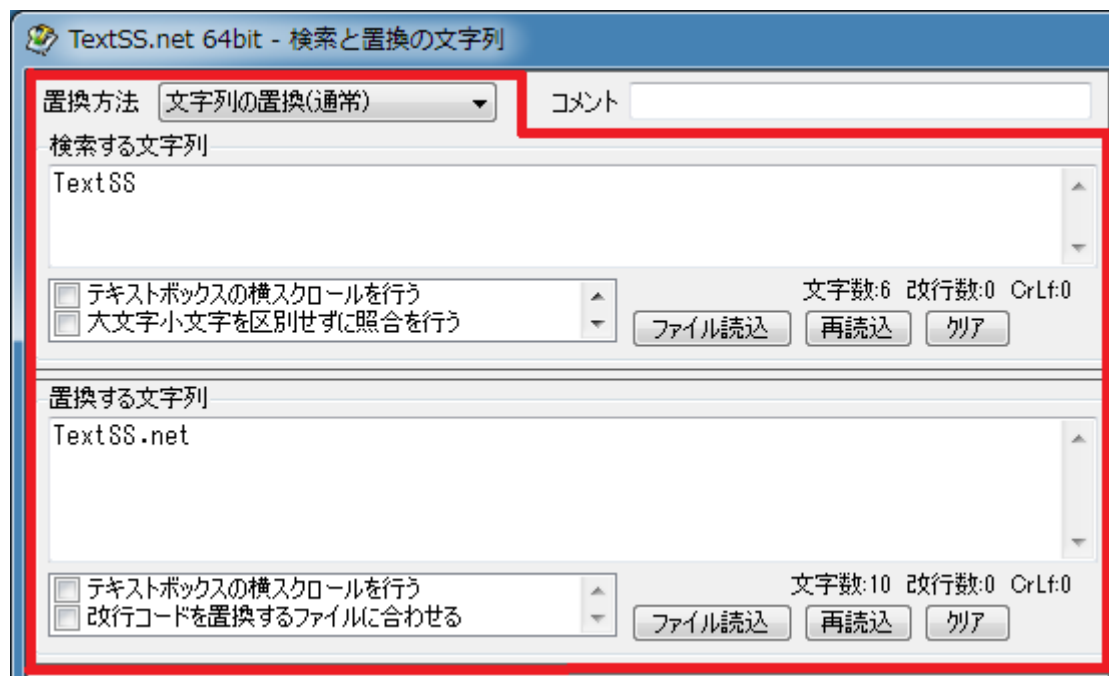


2-4-6. 検索する文字列と置換する文字列を登録します。

『TextSS』を『TextSS.net』に置換する例を説明します。この場合は次の置換内容で登録します。

置換方法	文字列の置換(通常)
検索する文字列	TextSS
置換する文字列	TextSS.net

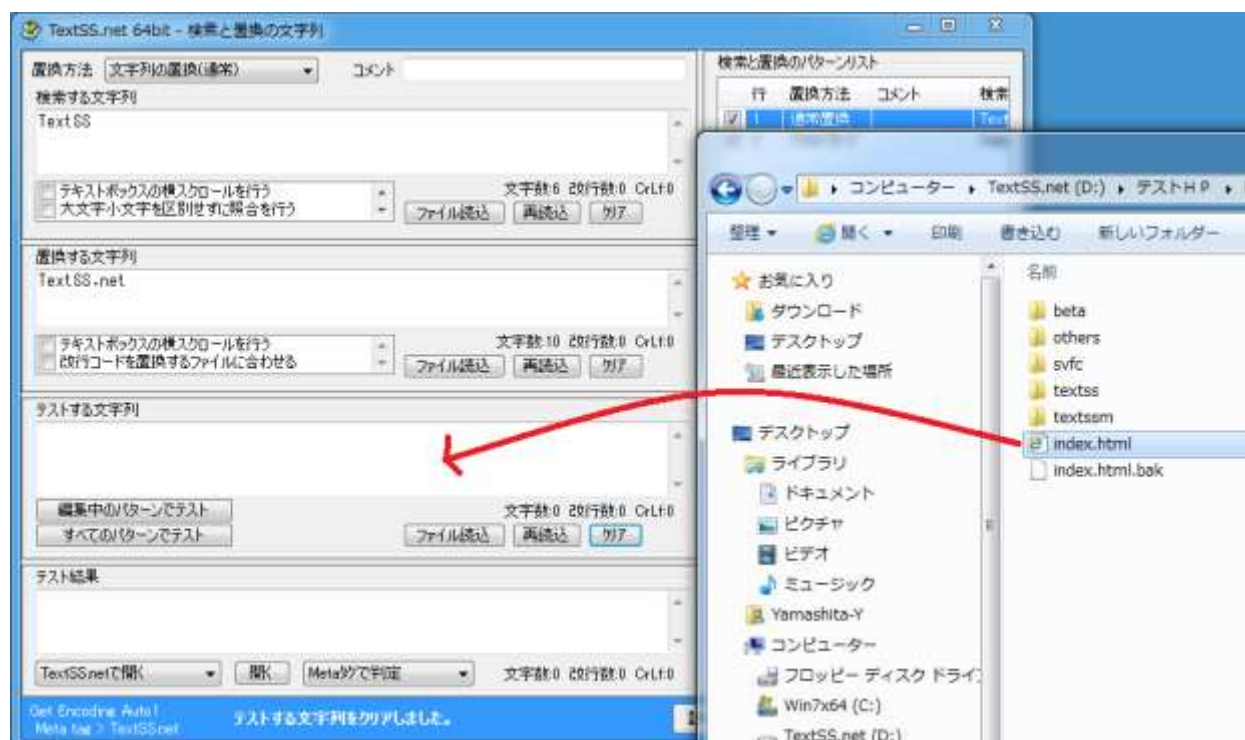
上記を画面に登録すると次のようになります。



2-4-7. 思うように置換できるかテストします。(この操作は省略可能)

検索と置換の条件に間違いがないか、テストを行います。省略する場合は次に進んでください。

『テストする文字列』に文字列を入力してテストすることができます。また、『ファイル読み込み』で置換したいファイルを選択したり、エクスプローラからドラッグ＆ドロップでファイルを読み込むことができます。



※上図はエクスプローラからドラッグ＆ドロップでファイルを読み込む例です。

テストを行う

ファイルを読み込んだら『編集中のパターンでテスト』をクリックします。

これはその上の画面の『検索する文字列』を『置換する文字列』に置換をするという意味になります。

詳細は『4-7. テストエリア』を参照してください。

テストする文字列

イル内を一括置換 TextSS</TD>
<TD width="100" align="center">Ver 3.21 β 3</TD>
</TR>
</TBODY>

編集中のパターンでテスト 文字数:5,318 改行数:157

すべてのパターンでテスト ファイル読込 再読込 クリア

テスト結果

イル内を一括置換 TextSS.net</TD>
<TD width="100" align="center">Ver 3.21 β 3</TD>
</TR>

TextSS.netで開く 開く Metaタグで判定 文字数:5,326 改行数:157

テスト結果が表示されるので確認します。確かに『TextSS』が『TextSS.net』に置換できました。

『テストする文字列』が検索と置換の条件で置換され、その結果が『テスト結果』に表示されます。

ブラウザで開いて確認する

置換は成功していますが、HTML タグを眺めていてもイメージがわかりません。実際にブラウザでどのように変更されたかを確認します。赤枠の部分を『ブラウザで開く』に変更し、『開く』をクリックします。

テスト結果

イル内を一括置換 TextSS.net</TD>
<TD width="100" align="center">Ver 3.21 β 3</TD>
</TR>

TextSS.netで開く 開く Metaタグで判定 文字数:5,326 改行数:157

テスト結果をファイルに保存して開くため、保存するときのコードページを指定することができます。

HTML ファイルの場合、<meta http-equiv="Content-Type" content="text/html; charset=Shift_JIS">のような記述 (Meta タグと呼ぶ) がある場合、コードページの指定で「Metaタグで判定」を選択すると、Shift_JIS としてファイルを作成して開きます。この記述がない場合は、コードページをリストの中から選択してください。



設定 ヘルプ 戻る 次へ

確認後、TextSS.net の画面右下の『次へ』をクリックします。

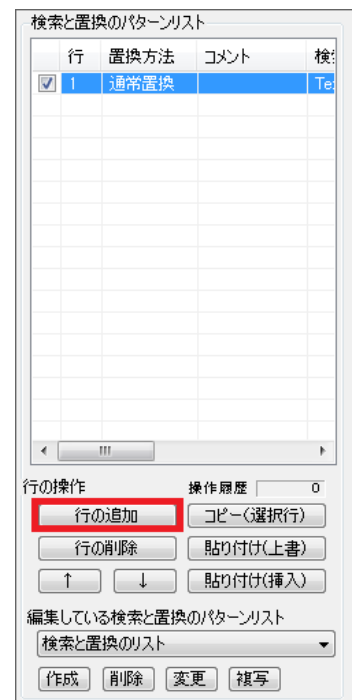
2-4-8. 2つ目の置換内容を登録する準備をします。

1つ目の置換条件を入力すると、画面右側の『検索と置換のパターンリスト』に自動的に登録されます。

2つ目の置換条件を入力するには、『検索と置換のパターンリスト』に2行目を作成する必要があります。

まずは、『行の追加』ボタンをクリックします。

『行の追加』ボタンをクリックすると2行目が追加され、左側の『検索する文字列』と『置換する文字列』を新しく入力することができます。ちなみに、1行目を修正したい場合はクリックすると再表示されます。

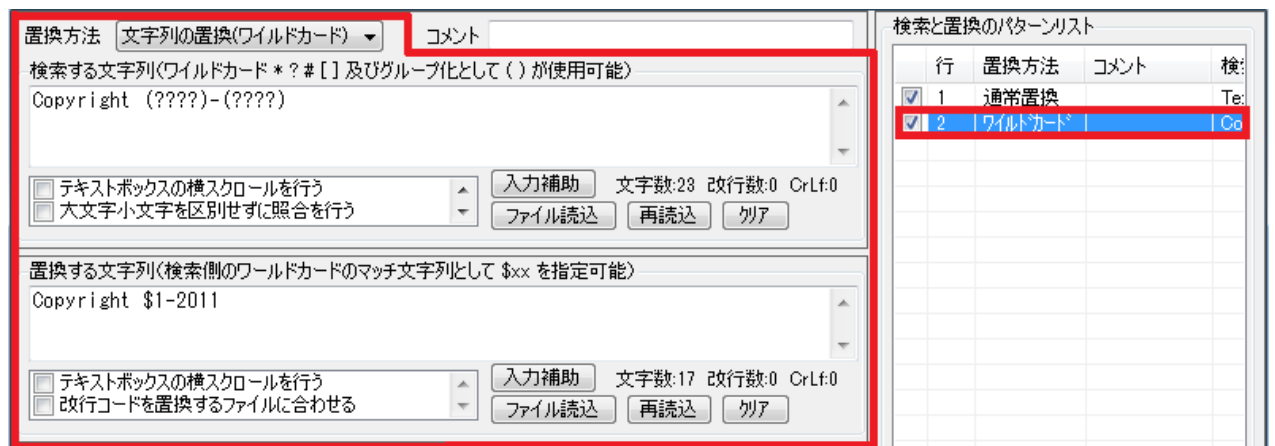


2-4-9. 2つ目の置換内容を登録します。

2つ目はワイルドカードを使い『Copyright』の次にある『数字4桁-数字4桁』の前の数字は残し、後ろの数字を『2011』に置換する例を説明します。この場合は次の置換内容を登録します。

置換方法	文字列の置換(ワイルドカード)
検索する文字列	Copyright (????)-(????)
置換する文字列	Copyright \$1-2011

上記を画面に登録すると次のようになります。



この内容をテストすると次のようになります。



確認後、TextSS.net の画面右下の『次へ』をクリックします。



2-4-10.置換の動作設定を行います。

置換の動作は3つの設定を行います。

2つ登録した置換を同時に実行し、結果をファイルに保存し、置換候補を発見したときに表示を行うという設定にします。

置換の実行方法の指定	すべてのパターンの検索と置換を行う
置換結果の保存	保存する
置換候補の確認	表示する

上記を画面に登録すると次のようになります。

置換の実行方法の指定 <input type="radio"/> 選択した1つのパターンの検索と置換を行う <input checked="" type="radio"/> すべてのパターンの検索と置換を行う	置換結果の保存 <input checked="" type="radio"/> 保存する <input type="radio"/> 保存しない	置換候補の確認 <input checked="" type="radio"/> 表示する <input type="radio"/> 表示しない
---	--	--

2-4-11.置換を開始します。

ここまでの操作で置換するファイルの登録、検索と置換の文字列の設定、置換の動作方法の設定を行いました。いよいよ置換を開始します。

置換は画面右下の『開始』ボタンをクリックすると開始します。

※置換方法が『4-5. 特殊変換』、『4-6. バイナリー置換』の時は置換候補の表示はできません。

※『7-4. マルチスレッド処理』で置換処理する場合も置換候補の表示はできません。

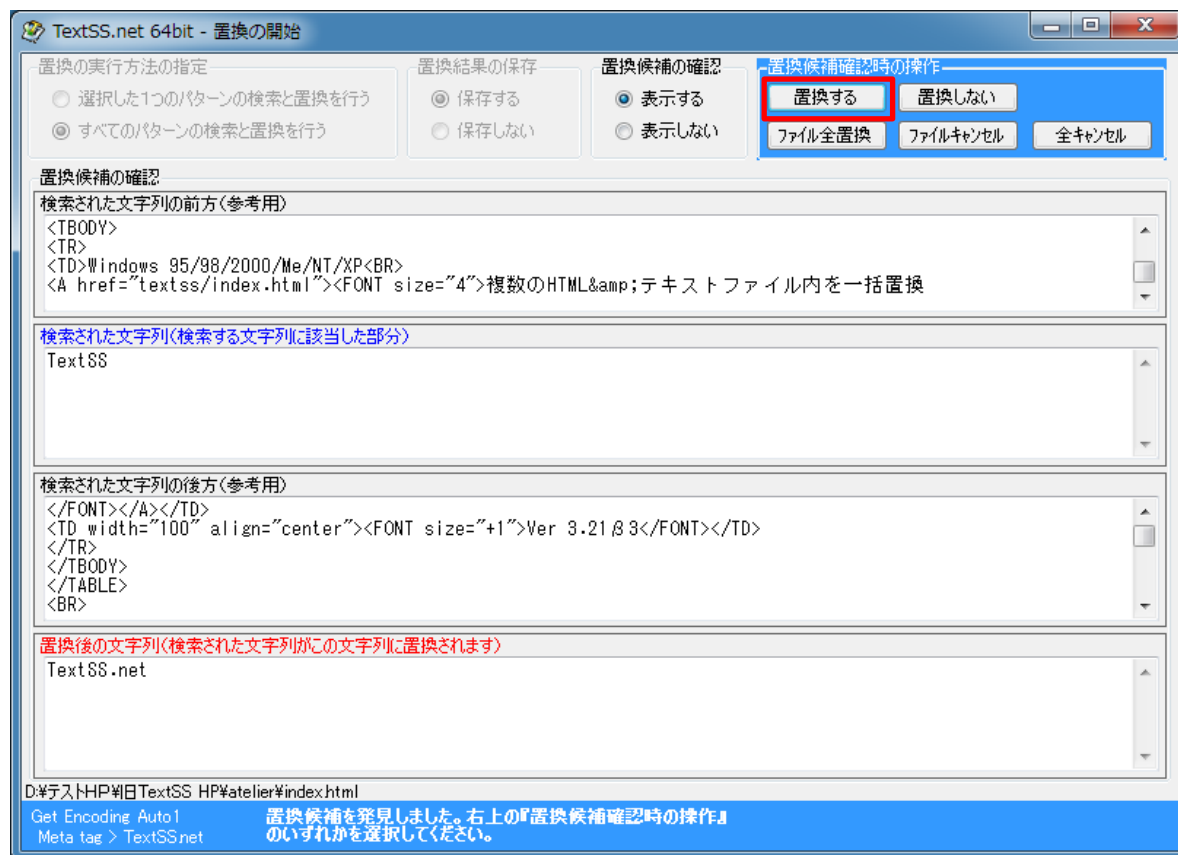
2-4-12. 置換候補の確認を行います。

置換を開始するとすぐ候補確認の画面が表示されます。

青文字の『TextSS』を発見し、それを赤文字の『TextSS.net』に置換するという確認画面です。

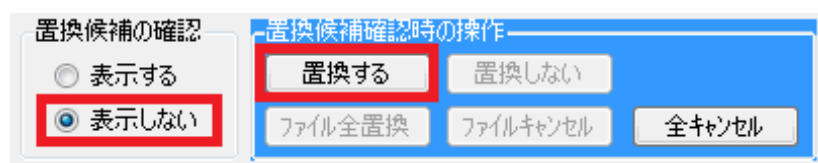
青文字の上下にある文字は青文字の前後の文字列を意味しています。(参考表示)

内容に間違いが無ければ『置換する』ボタンをクリックします。



次の候補を発見すると再度置換候補の確認画面が表示されます。

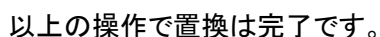
毎回確認するのも面倒なので『置換候補の確認』を『表示しない』にして『置換する』ボタンをクリックします。これにより、以降は置換候補の確認を表示しないで一気に置換が行われます。



置換が完了すると最初のファイルリストの画面に戻ります。

これは、今回の置換で、

- の2つの置換を実行したので、それぞれの置換結果を表示しています。

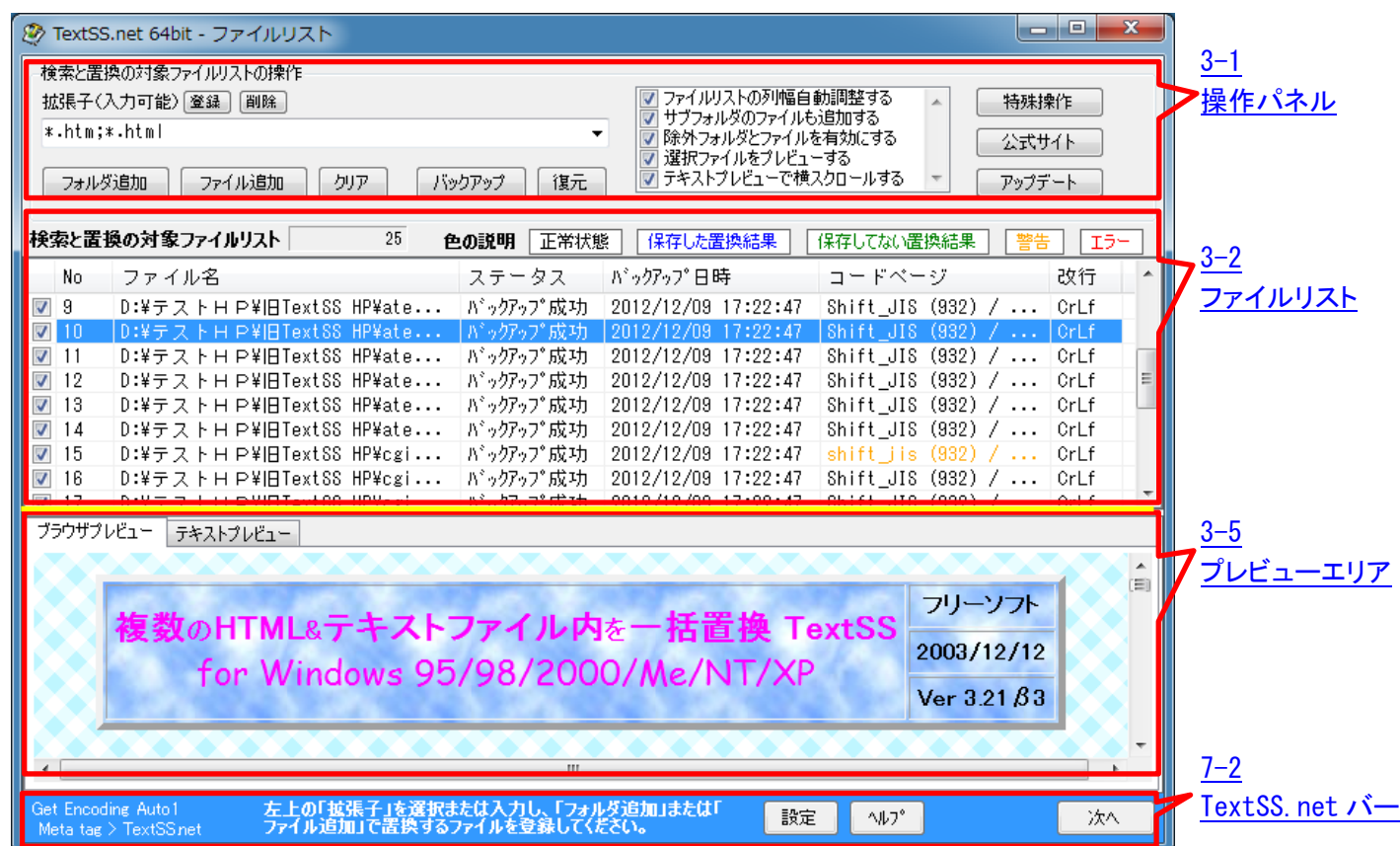


失敗した場合は『復元』ボタンをクリックすれば、ファイルを復元して置換前の状態に戻すこともできます。

※TextSS.net を終了すると元に戻せなくなるので十分に確認してください。

3. ファイルリスト

置換するファイルの登録を行います。ファイルのバックアップや復元、プレビュー機能、ブラウザやメモ帳でファイルを参照することができます。ファイルの登録が終わったら右下の『次へ』をクリックしてください。



※上記の黄線の部分(ファイルリストとプレビューの間)は上下に移動させることができます。

3-1. 操作パネル

ファイルリストに登録するファイルの操作などを行います。

ボタン名	説明
拡張子 (入力可能)	ファイルの拡張子の入力または選択を行います。 直接入力する場合は任意に入力します。*.htm のように入力し、複数入力する場合はセミコロン ; で区切ります。また、*page.* のようにワイルドカードで入力可能です。選択する場合は右側の下矢印をクリックすると、一覧が表示されるのでそこから選択することができます。一覧には自分で拡張子を登録することができます。最後に選択したものが次回起動時にデフォルト表示されます。
登録	拡張子欄に入力した拡張子を登録します。よく使うものは登録しておくくと便利です。
削除	拡張子欄に入力した拡張子を削除します。使わなくなった拡張子を削除する場合に使用します。
フォルダ追加	置換するファイルが存在するフォルダをファイルリストに登録します。サブフォルダを含めて指定した拡張子のファイルを一括して登録することができます。登録と同時にファイルのバックアップが行われ、TextSS.net を終了するまでいつでも復元することができます。設定画面で登録した『6-4. 除外フォルダとファイル』は登録されません。拡張子 .bak のファイルは登録できません。
ファイル追加	置換するファイルを1つまたは複数個を同時に登録します。複数選択するときはダイアログ画面でCtrlキーを押下しながらファイルを選択し、範囲選択するときはShiftキーを押下しながらファイルを選択してください。登録と同時にファイルのバックアップが行われ、TextSS.net を終了するまでいつでも復元することができます。設定画面で登録した『6-4. 除外フォルダとファイル』は登録されません。拡張子 .bak のファイルは無視します。

クリア	ファイルリストをクリアします。登録したファイルが削除（一覧から削除されるだけでファイル自体は削除しません）され、バックアップも削除されます。置換結果が表示されている場合は、結果も削除されます。クリアするとバックアップの復元もできなくなるので注意してください。
バックアップ	ファイルリストのすべてのファイルをバックアップします。ある程度置換を行い、その時点でもう一度バックアップしたい場合に使用します。スイッチが ON のファイルだけをバックアップします。
復元	ファイルリストのすべてのファイルを復元します。置換に失敗した場合に復元することができます。スイッチが ON のファイルだけを復元します。
特殊操作	拡張子の置換、バックアップファイル (*.bak) を削除するなどの特殊操作を行います。詳しい説明は『3-8. 特殊操作の説明』を参照してください。
公式サイト	ブラウザで公式サイトを表示します。
アップデート	TextSS.net のアップデートのチェックを行います。アップデートが公開されている場合は最新バージョンにアップデートすることができます。 アップデートの手順は『7-6. 自動アップデートについて』を参照してください。

■注意事項■

フォルダやファイルの登録中にキャンセルする場合は、必ず『7-4. マルチスレッド処理』の説明を参照してください。マルチスレッドではファイルリストの登録や削除処理が順不同に行われるので注意が必要です。

スイッチ名	説明
ファイルリストの列幅自動調整する	フォームの大きさを変更したときにファイル名の列幅を自動調整するかを設定します。ON にすると自動調整され、OFF にすると自動調整されません。列幅を自分で調整する場合は OFF にしてください。なお、置換詳細結果が表示されている場合は自動調整されません。
サブフォルダのファイルも追加する	フォルダを追加するときにサブフォルダ（フォルダの中のフォルダ）の中を検索するかを設定します。ON にするとサブフォルダも検索し、OFF にするとサブフォルダの検索は行いません。これは『フォルダの追加』ボタンと、エクスプローラからファイルリストにフォルダをドラッグ＆ドロップした場合に機能します。
除外フォルダとファイルを有効にする	設定画面で登録した『6-4. 除外フォルダとファイル』を有効にするかを設定します。ON にすると除外し、OFF にすると除外をやめます。 通常は ON のままにして、一時的に除外したくない場合は OFF にしてください。ログフォルダなど、置換したくないフォルダを登録しておくことができます。
選択ファイルをプレビューする	選択したファイルをプレビューします。Internet Explorer で表示できるものはブラウザでプレビューし、テキストファイルはテキスト形式でプレビューします。
テキストプレビューで横スクロールする	テキストプレビューで横スクロールを行うかを設定します。スクロールさせても、1行が約1000文字を超えると自動的に折り返し表示します。

3-2. ファイルリスト

登録したファイルを表示します。また、各種操作を行うことができます。

検索と置換の対象ファイルリスト		25	色の説明	正常状態	保存した置換結果	保存していない置換結果	警告	エラー
No	ファイル名	ステータス	バックアップ日時	コードページ	改行			
13	D:\テスト\H P\旧TextSS HP\ate...	バックアップ成功	2012/12/11 19:02:09	Shift_JIS (932) / ...	CrLf			
14	D:\テスト\H P\旧TextSS HP\ate...	バックアップ成功	2012/12/11 19:02:09	Shift_JIS (932) / ...	CrLf			
15	D:\テスト\H P\旧TextSS HP\cgi...	バックアップ成功	2012/12/11 19:02:09	shift_jis (932) / ...	CrLf			
16	D:\テスト\H P\旧TextSS HP\cgi...	バックアップ成功	2012/12/11 19:02:09	Shift_JIS (932) / ...	CrLf			
17	D:\テスト\H P\旧TextSS HP\cgi...	バックアップ成功	2012/12/11 19:02:09	Shift_JIS (932) / ...	CrLf			
18	D:\テスト\H P\旧TextSS HP\cgi...	バックアップ成功	2012/12/11 19:02:09	Shift_JIS (932) / ...	CrLf			
19	D:\テスト\H P\旧TextSS HP\cgi...	バックアップ成功	2012/12/11 19:02:09	Shift_JIS (932) / ...	CrLf			
20	D:\テスト\H P\旧TextSS HP\cgi...	バックアップ成功	2012/12/11 19:02:09	Shift_JIS (932) / ...	CrLf			
21	D:\テスト\H P\旧TextSS HP\cgi...	バックアップ成功	2012/12/11 19:02:09	Shift_JIS (932) / ...	CrLf			

※赤線の部分を左右に移動して、列幅を変更することができます。

※エクスプローラからフォルダやファイルをドラッグ＆ドロップで登録することができます。

※ヘッダをクリックするとソートさせることができます。

列の名前	説明
空欄(スイッチ)	ファイルのバックアップや復元及び置換の実行を行うかを設定するスイッチです。ON の場合に操作が行われ、OFF の場合は操作を無視します。ただし、『3-4. ポップアップメニュー』の『選択している・・・』のような選択したファイルに対する操作に対しては ON/OFF にかかわらず実行します。
No	登録したファイルの番号を表示します。
ファイル名	登録したファイルのフルパス(ドライブ・フォルダ・ファイル名)を表示します。
ステータス	ファイルに対して操作したときの状態を表示しています。詳しくは下記を参照してください。
バックアップ日時	ファイルをバックアップした日時を表示します。
コードページ	ファイルのコードページを表示します。カッコ内はコードページの番号を示します。表示される名称は OS に依存するので環境により変わります。UTF の場合、BOM の有無を右側に表示します。コードページの判別方法により、警告やエラーが表示される場合があります。判定方法を変更するには設定画面の『6-7. コードページ設定』を参照してください。
改行	ファイルに含まれる改行コードを CrLf・Cr・Lf で表示します。
置換	置換結果が表示されます。詳細は『5-4. ファイルリストで置換結果を確認』を参照してください。 ※置換前は列自体が表示されません。

※ヘッダをクリックするとソートさせることができます。

※置換後に変更された部分は青や緑の色で表示されます。置換後の結果は『5-4. ファイルリストで置換結果を確認』を参照してください。

コードページの補足

設定画面の『6-7. コードページ設定』で『自動判定①』を選択した場合、次のように表示されます。

コードページ			
Shift_JIS (932)	Metaタグ判定	charset= Shift_JIS (932)	TextSS.net= shift_jis (932)
Shift_JIS (932)	Metaタグ判定	charset= Shift_JIS (932)	TextSS.net= shift_jis (932)
Shift_JIS (932)	Metaタグ判定	charset= Shift_JIS (932)	TextSS.net= shift_jis (932)
shift_jis (932)	TextSS.net判定	charste=	TextSS.net= shift_jis (932)
①	②	③	④

- ①判定結果として名前とコードページ番号を表示します。
- ②Meta タグと TextSS. net のどちらで判断したのかを表示します。
- ③Meta タグの charset の取得値を表示します。
- ④TextSS. net の判定結果を表示します。

※上記は、『自動判定①』で『Meta タグの charset でコードページの判定を行う』を ON にし、

『Meta タグ で判断し、見つからなければ TextSS. net の結果で処理を続行』を選択した時の表示例です。

※この設定では、最優先の Meta タグで判定した時は黒色、TextSS. net で判定した時は警告として橙色で表示されています。

3-3.ステータス

ファイルリストのステータスの文字の色と意味の説明です。

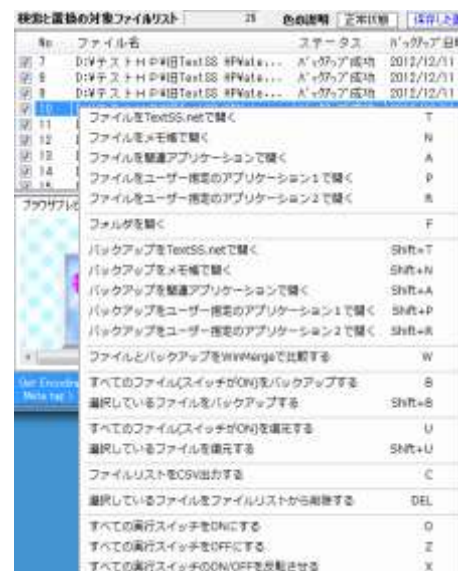
ステータス	説明
バックアップ成功	バックアップに成功しました。
復元成功	復元に成功しました。
バックアップ無し	復元に失敗しました。バックアップしていないか、バックアップした後に何らかの理由によりバックアップファイルが削除されたりアクセスできない場合に発生します。
バックアップ失敗 (xxx)	バックアップに失敗しました。(xxx)の部分に詳しいエラー内容が表示されます。 ほとんどの場合、バックアップファイルを別のアプリケーションで開いているか、バックアップファイルが削除されてアクセスできない状態になっています。
復元失敗(xxx)	復元に失敗しました。(xxx)の部分に詳しいエラー内容が表示されます。 ほとんどの場合、ファイルを別のアプリケーションで開いているためアクセスできない状態になっています。または、バックアップファイルを別のアプリケーションで開いているか、バックアップファイルが削除されてアクセスできない状態になっています。
復元無視	実行スイッチが OFF のため、復元操作を無視したことを示します。

※置換後の置換結果については『5-4. ファイルリストで置換結果を確認』を参照してください。

3-4.ポップアップメニュー（右クリック）

ファイルリストのファイルを右クリックすると、ポップアップメニューが表示されます。選択したファイルに対する処理とファイルリスト全体に対する処理があります。目的に応じて使用してください。

また、ファイルリストをダブルクリックしたときに、ポップアップの機能を割り当てることができます。ダブルクリックの動作は設定画面の『6-3. 動作設定2』の『ファイルリストのダブルクリックの動作』で設定することができます。



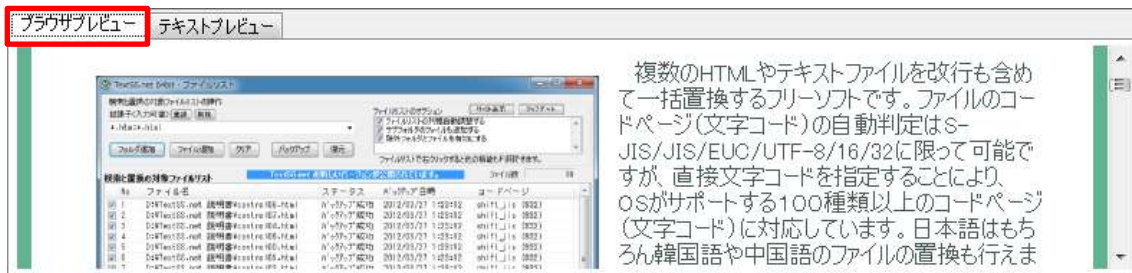
機能	説明
ファイルを TextSS.net で開く	選択したファイルを TextSS.net で開きます。エンコードを選択できるので文字化けしたときにコードページを調べることができます。初期設定は日本で一般的なコードページのみ選択可能です。また、約10万文字まで表示することが可能です。 詳細は『3-6. TextSS.net で開く』を参照してください。 ※設定画面の『6-2. 動作設定1 詳細設定』で使用可能なすべてのコードページを選択することが可能になります。また、約10万文字に制限せず無制限に表示することも可能です。
ファイルをメモ帳で開く	選択したファイルを Windows 標準のメモ帳で開きます。
ファイルを関連アプリケーションで開く	選択したファイルの拡張子に関連付けされたアプリケーションで開きます。Windows 標準のエクスプローラでファイルをダブルクリックで開いたときと同じ動作をします。
ファイルをユーザー指定のアプリケーション1で開く	選択したファイルをユーザー指定のアプリケーション1または2で開きます。いつも使っているテキストエディタなどを登録しておくくと便利です。2つ登録できます。 ※設定画面の『6-3. 動作設定2』で登録することができます。
ファイルをユーザー指定のアプリケーション2で開く	

フォルダを開く	選択したファイルが存在するフォルダを Windows 標準のエクスプローラで開きます。
バックアップを TextSS.net で開く	選択したファイルのバックアップを TextSS.net で開きます。(※1) 詳細は『 3-6. TextSS.net で開く 』を参照してください。
バックアップをメモ帳で開く	選択したファイルのバックアップをメモ帳で開きます。(※1)
バックアップを関連アプリケーションで開く	選択したファイルのバックアップを関連付けされたアプリケーションで開きます。(※1) バックアップ元の拡張子で関連付けされたアプリケーションで開きます。
バックアップをユーザー指定のアプリケーション1で開く	選択したファイルのバックアップをユーザー指定のアプリケーション1または2で開きます。(※1)
バックアップをユーザー指定のアプリケーション2で開く	
ファイルとバックアップを WinMerge で比較する	TextSS.net はファイルやフォルダを比較する有名なフリーソフト『WinMerge』及び『WinMergePortable』を利用することで、置換前と後でファイルのどこがどのように変わったのかを調べることができます。 詳細は『 3-10. ファイルとバックアップを WinMerge で比較する 』を参照してください。
すべてのファイルをバックアップする	すべてのファイルをバックアップします。画面左上の『バックアップ』ボタンと同じ動作です。スイッチが ON のファイルだけをバックアップします。
選択しているファイルをバックアップする	選択したファイルだけをバックアップします。
すべてのファイルを復元する	すべてのファイルを復元します。画面左上の『復元』ボタンと同じ動作です。スイッチが ON のファイルだけをバックアップします。
選択しているファイルを復元する	選択したファイルだけを復元します。
選択しているファイルをファイルリストから削除する	選択しているファイルをファイルリストから削除します。置換したくないファイルを削除する場合に使用します。あくまでファイルリストから削除するだけでファイル自体の削除は行いません。
すべての実行スイッチを ON にする	ファイルリストのすべてのファイルの実行スイッチを ON にします。
すべての実行スイッチを OFF にする	ファイルリストのすべてのファイルの実行スイッチを OFF にします。
すべての実行スイッチの ON/OFF を反転させる	ファイルリストのすべてのファイルの実行スイッチの ON/OFF を反転(入れ替え)します。

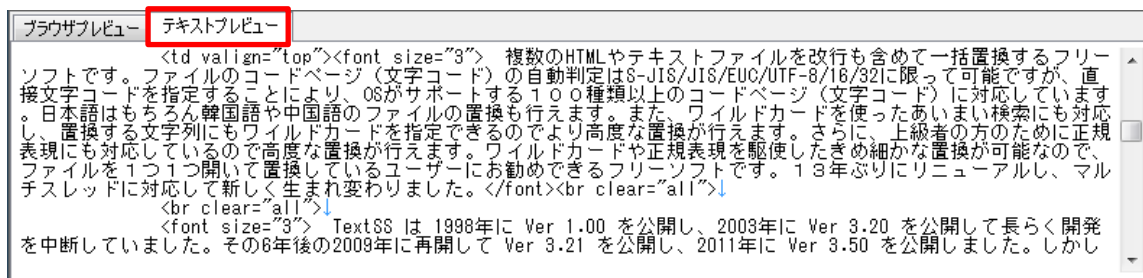
※1 ダミーファイルが作成されますが、TextSS.net を終了すれば削除されます。

3-5. プレビュー

選択したファイルをブラウザとテキストでプレビューすることができます。どちらでプレビューするかはタブで切り替えます。



※右クリックでブラウザのポップアップメニューを使用することができます。



制限事項

プレビューはあくまで小さなファイルの内容を簡単に確認する機能なので次の制約があります。

①リンクなどで別のページへ移動できない

選択したファイルとプレビュー内容が異なると、誤操作の原因になるための制限です。

②BGMの再生を禁止。

意図せずホームページのBGMが再生されるのを防ぐためです。

※動画やフラッシュは再生されるので注意してください。

③JAVA スクリプトのエラーダイアログを表示しない。

TextSS.net に関係ないエラーダイアログを表示させない為です。

④ファイルサイズが 5MB を超えるものはプレビューしません。

巨大な CSV ファイルをプレビューし、システムが不安定になるのを防ぐためです。

⑤ブラウザプレビューはインストールされている Internet Explorer の機能を利用しています。

⑥ブラウザプレビューはブラウザでプレビューできる場合にのみ表示されます。

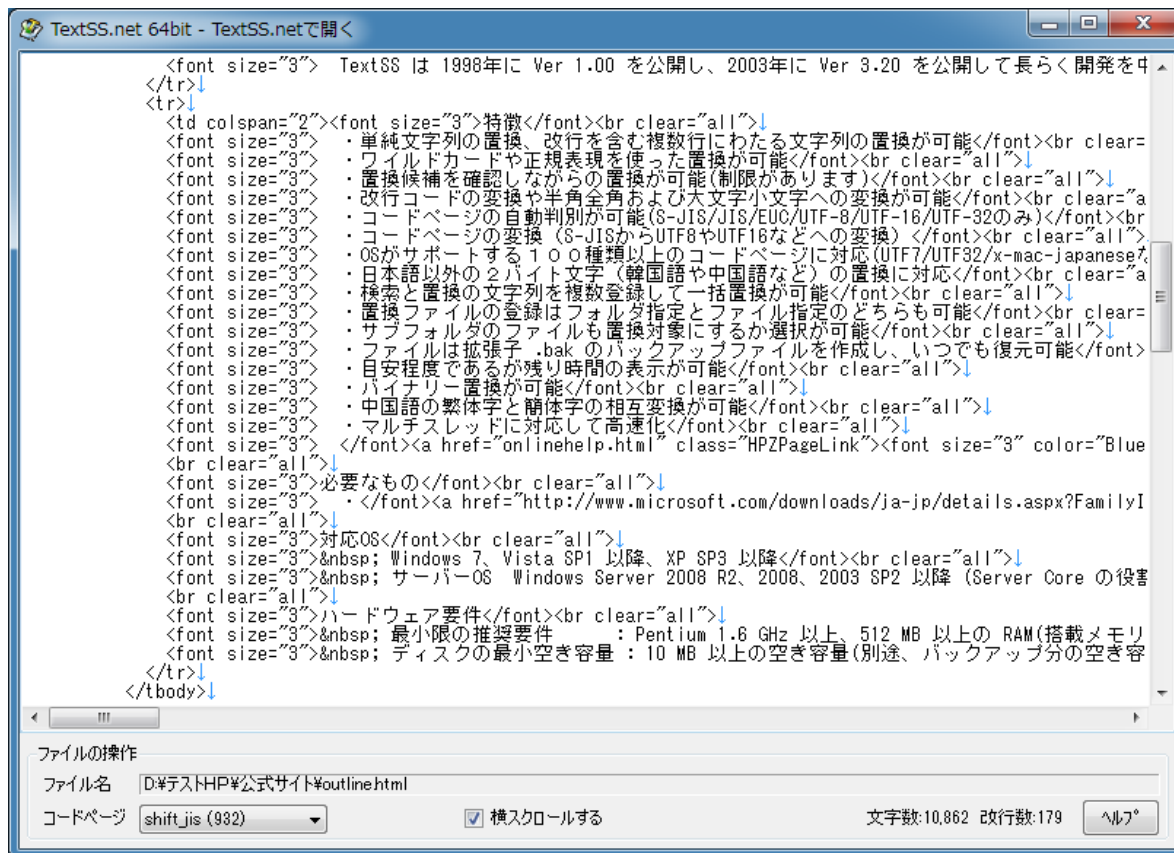
⑦テキストプレビューはコードページが判別できる時にのみ表示されます。

※上記制限はプレビューのみであり、ポップアップからブラウザで表示させた場合には何も制限がありません。

※HTML タグの記述方法により制限が無視される場合もあります。

3-6.TextSS.net で開く

ファイルリストで右クリックしたときの『TextSS.net で開く』の機能説明です。Windows のメモ帳のような機能でファイルを開くことができます。コードページを自由に変更してファイルを読み込むので、どのコードページで正常に開けるのかを確認できます。参照のみで、保存はできません。また、検索と置換の文字列設定画面のテスト結果も同様に参照することができます。



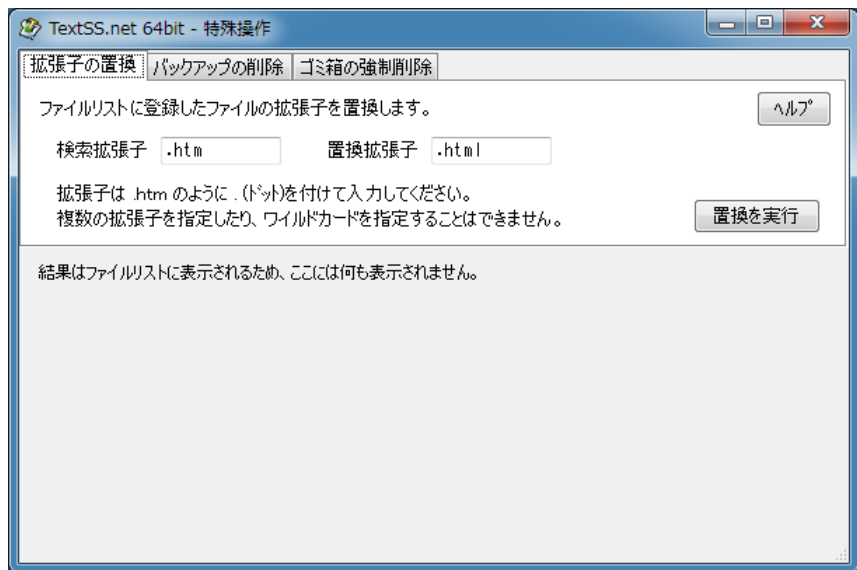
機能	説明
ファイル名	開いているファイル名を表示します。
コードページ	開いているファイルのコードページを表します。リストボックスになっているので変更することができます。コードページを変更するとファイルを再読み込みします。UTF の場合、BOM の有無を右側に表示します。 OSがサポートするすべてのコードページを表示させる場合は、『6-2. 動作設定1 詳細設定』の『日本で使われるコードページのみ使用する』を OFF にしてください。
横スクロールする	テキストプレビューで横スクロールを行うかを設定します。スクロールさせても、1行が約 1000 文字を超えると自動的に折り返し表示します。
文字数/改行数	テキストボックス内の文字数と改行数を表示します。 文字数 半角全角問わず1文字としてカウントして表示します。 改行コードは Cr と Lf をそれぞれカウントします。 改行数 改行コード(CrLf・Cr・Lf)の合計数を表示します。 右側に表示できるスペースがある場合は CrLf・Cr・Lf それぞれの改行数を表示します。

3-7.特殊操作（拡張子の置換）

ファイルリストに登録したファイルの拡張子を置換します。例えば、拡張子 .htm を .html に置換する場合に使用します。この機能は、ファイルの拡張子を置換するだけです。拡張子を置換した場合にファイル内のリンクの整合性がおかしくなる場合があります。その場合は、通常の置換で修正する必要があります。

なお、結果はファイルリストに表示されます。

※置換前に TextSS.net 以外の方法でファイルをバックアップすることをお勧めします。

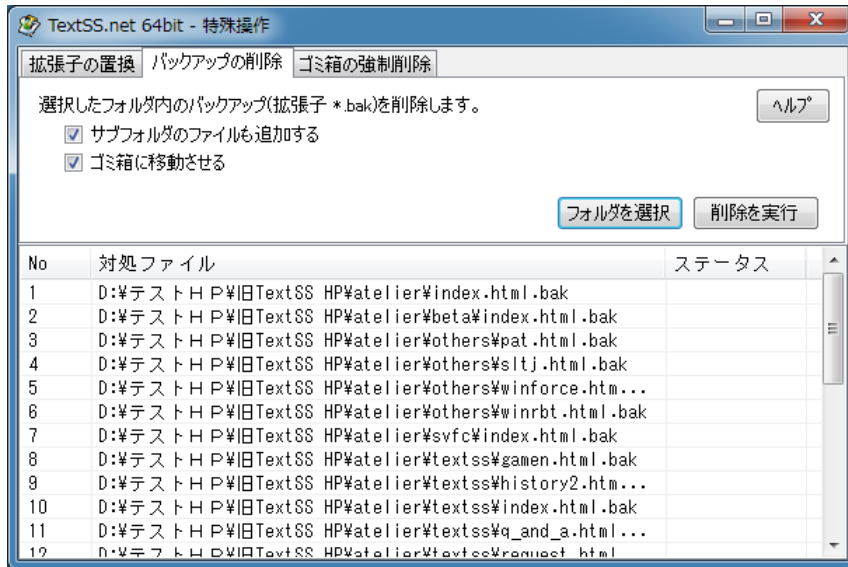


機能	説明
検索拡張子	検索するファイルの拡張子を入力します。先頭は必ず . (ドット) を指定してください。ワイルドカードの指定はできません。
置換拡張子	新しい拡張子を入力します。先頭は必ず . (ドット) を指定してください。入力した拡張子に置換されます。ワイルドカードの指定はできません。
置換を実行	拡張子の置換を開始します。 置換に失敗した場合はエラー表示されます。置換に成功したが、バックアップの同期に失敗した場合は警告が表示されます。(バックアップは“ファイル名” + “.bak” となるので、拡張子の置換を行うと自動的にバックアップのファイル名も置換され、それが失敗すると警告が表示されます)。主にファイルを別のソフトで開いていて、ロックされている場合にエラーや警告が発生します。エラーや警告が発生した場合は、その時点でバックアップすることをお勧めします。

3-8.特殊操作（バックアップの削除）

選択したフォルダ内の拡張子 *.bak ファイルをすべて削除します。置換が完全に終了し、ご自身でバックアップする場合など不要になった拡張子 *.bak を削除することができます。

この機能はファイルリストに登録したファイルは一切無視します。この画面でバックアップを削除したいフォルダを『フォルダを選択』で選択し、『削除を実行』でバックアップを削除することができます。

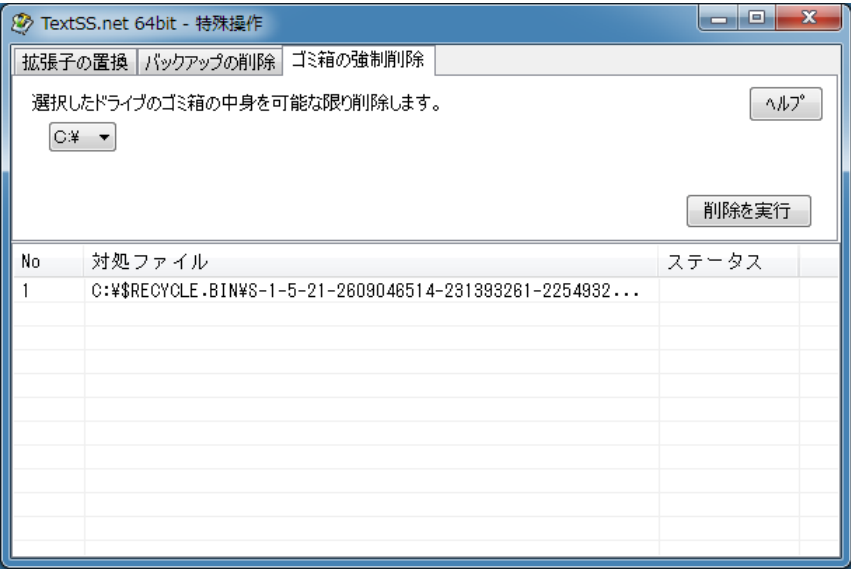


機能	説明
サブフォルダのファイルも追加する	フォルダを選択したとき、サブフォルダ（フォルダの中のフォルダ）も検索するかを設定します。ON ならサブフォルダも検索し、OFF ならサブフォルダの検索を行いません。
ゴミ箱に移動させる	削除するときの動作をゴミ箱に移動させるのか、ファイルを物理的に削除するかを設定します。ON ならゴミ箱に移動し、OFF なら物理的に削除します。通常は ON にして、本当に必要なくなったときにゴミ箱を空にすることをお勧めします。 1万個以上の大量のファイルをゴミ箱に移動すると、ゴミ箱が壊れる場合があるので注意してください。
フォルダを選択	バックアップを削除するフォルダを選択します。
削除を実行	バックアップの削除を開始します。

3-9.特殊操作（ゴミ箱の強制削除）

選択したドライブのゴミ箱を強制削除します。[『6-2. 動作設定1 詳細設定』](#)の『置換結果を保存する前に元ファイルをゴミ箱に移動する』を ON にして大量のファイルの置換を行うと、ゴミ箱の削除に時間がかかり、ゴミ箱を削除できなくなる場合があります。その場合に、この機能でゴミ箱を強制的に削除し、復旧させることができます。

※ドライブ C: など一部は管理者権限がないと削除できない場合があります。

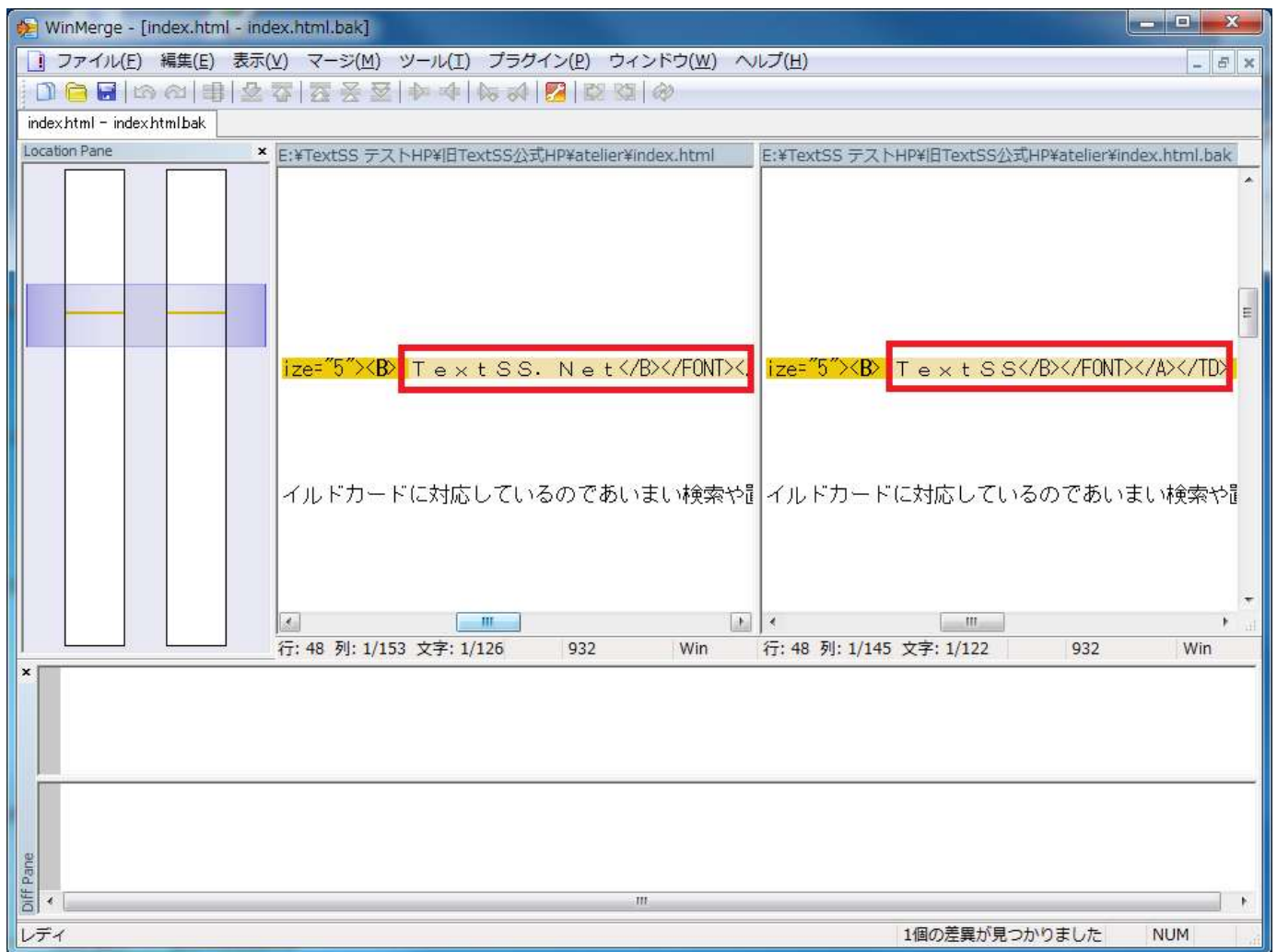


機能	説明
ドライブ	ゴミ箱を削除したいドライブを選択します。指定したドライブのゴミ箱にファイルが存在する場合は下部のリストに表示されます。本当に削除して良いかよく確認してください。
削除を実行	ゴミ箱のファイルを削除します。

3-10. ファイルとバックアップを WinMerge で比較する

ファイルやフォルダを比較する有名なフリーソフト『WinMerge』及び『WinMergePortable』を利用し、置換前と置換後のファイルの差異(変更部分)を調べることができます。海外のソフトですが、日本語パッチも公開されており、私が知る限り最強のファイル比較ソフトです。TextSS.net から直接起動することでファイルやフォルダの選択操作を省略することができます。

『WinMerge』及び『WinMergePortable』はかなり有名なソフトですので、インターネット上でインストール方法や使い方を参照してください。

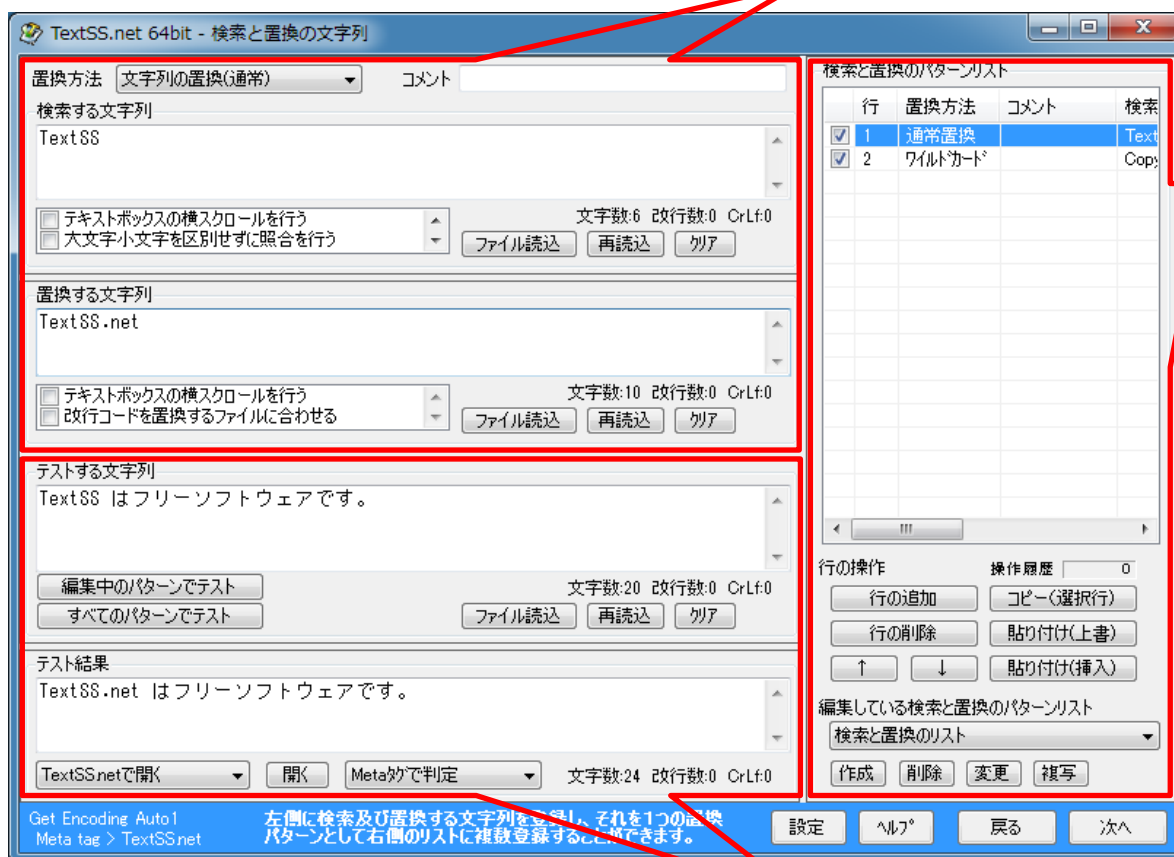


※上記画面は WinMerge でファイルを比較している画面です。

4. 検索と置換の文字列

検索する文字列と置換する文字列の登録を行います。テスト置換することもできます。画面だけ見るとかなり難しく見えますが『検索する文字列と置換する文字列を1つのパターンとして登録する』ということを念頭においてもらえば、すぐに理解できると思います。文字列の登録が終わったら右下の『次へ』をクリックしてください。

4-1 検索と置換の文字列

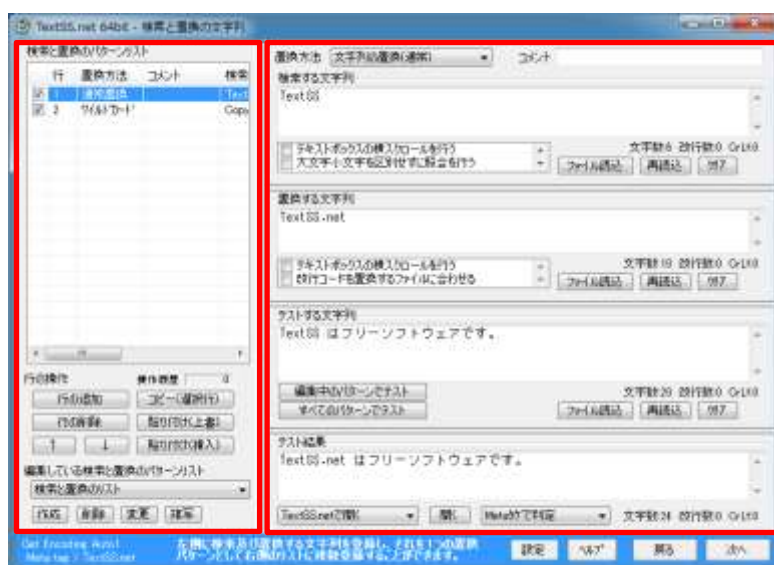


4-8 パターンリスト

4-7 テストエリア

枠の部分をドラッグすると上下左右にレイアウトを変更することができます。ただし、小さくしすぎると一部見えなくなってしまうボタン等があります。

この画面はデフォルトでパターンリストが画面の右側にありますが、『6-2. 動作設定1 詳細設定』の『検索と置換の文字列設定画面の左右を入れ替える』を ON にすると、左右入れ替えることができます。



4-1. 検索と置換の文字列

置換方法と検索する文字列及び置換する文字列を入力します。特殊変換では画面レイアウトが変わります。

4-1-1. 置換方法

置換方法を選択します。詳細は各置換方法の説明を参照してください。候補に○が付いているものは『[5. 置換の開始](#)』で置換を行ったときに検索した文字列に該当する部分を表示し、置換するかどうかを1つ1つ確認することができます。

機能	候補	説明
文字列の置換 (通常)	○	入力した文字でそのまま検索及び置換を行います。もっとも基本的な検索と置換です。
文字列の置換 (ワイルドカード)	○	一般的なワイルドカードを TextSS.net で拡張したものです。検索する文字列に指定したワイルドカード * ? # [] を置換する文字列で \$ として指定し、順番の入れ替えや複写が行えます。ワイルドカードの簡単さを維持しながら正規表現的な指定ができます。TextSS.net の独自のワイルドカードなので一般的なワイルドカードとは多少異なります。また、検索する文字列と置換する文字列で指定できるワイルドカードが異なるので注意してください。
文字列の置換 (正規表現)	○	.NET Framework で提供される Perl5 相当の正規表現を使った置換が行えます。置換 (Replace) をサポートしています。かなり複雑な検索や置換を行うことができます。詳しくは MSDN の『 正規表現言語要素 』を参照。
特殊変換	×	英字の大文字と小文字の相互変換、半角と全角の相互変換、ひらがなとカタカナの相互変換などの変換を行います。また、保存するときのコードページを変更することもできます。特殊変換では、文字列の入力などは行わず、変換したい操作のスイッチ ON とコードページを選択します。
バイナリー置換	×	TextSS Ver 3 ユーザー向けのバイナリー置換です。旧バージョンは日本語以外の2バイト文字に対応していなかったので必要な機能でしたが、Ver 5 から Unicode に対応しているので日本語以外の2バイト文字も通常の置換で行えるので、基本的に使用しません。互換性のための機能です。バイナリーファイルの置換を行う場合に使用しますが、単純に置換するとバイナリーファイル(特にプログラム)は壊れます。

※シングルスレッドの場合に候補確認を表示できます。マルチスレッドでは候補確認が行えません。

※特殊変換とバイナリー置換は候補確認を表示できません。

4-1-2. コメント

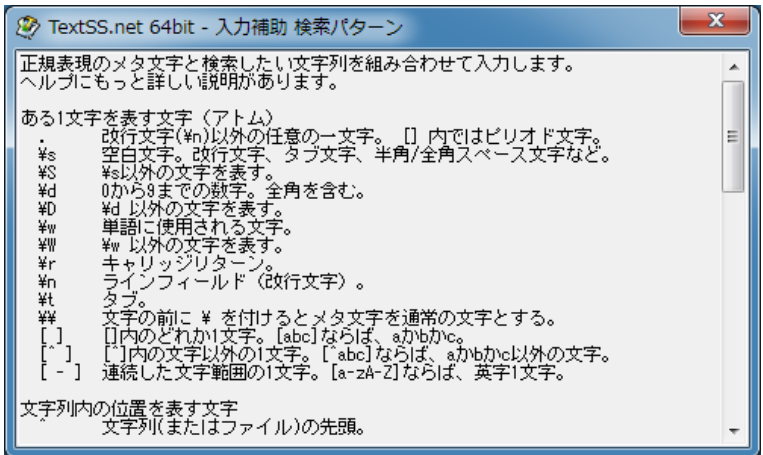
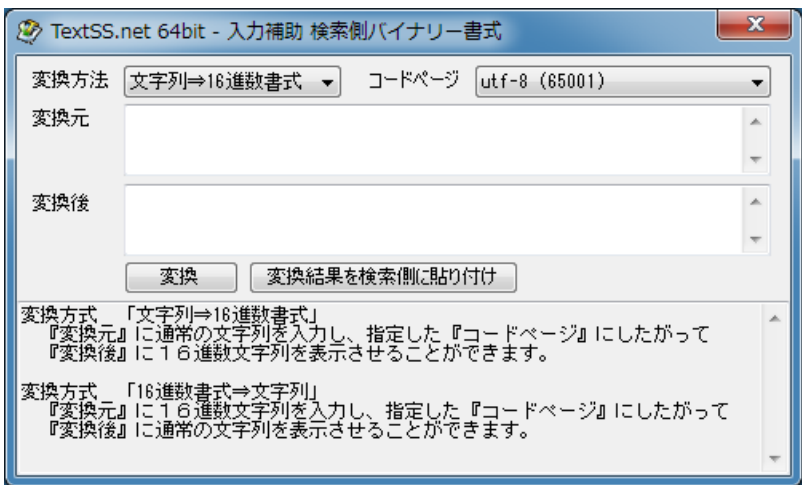
置換の内容や説明を入力します。後で置換内容を把握するために使用します。約100文字入力可能で、省略することもできます。

4-1-3. オプションスイッチ

検索する文字列と置換する文字列のオプションスイッチやボタンの使い方を説明します。置換方法により、指定できるスイッチが異なります。

スイッチ	説明
テキストボックスの横スクロールを行う	<p>テキストボックスの横スクロールを行うかを設定します。</p> <p>ON の場合 横スクロールします。ただし、1 行が約 1000 文字を超えると自動的に折り返し表示します。</p> <p>OFF の場合 横スクロールせず、折り返し表示します。</p>
大文字小文字を区別せずに照合を行う	アルファベットの大文字と小文字を区別しないで検索します。
改行コードを置換するファイルに合わせる	<p>テキストボックスに入力した改行コード (CrLf・Cr・Lf) を置換するファイルでもっとも多い改行コードに変換してから検索と置換を行います。</p> <p>ON の場合 テキストボックスの改行コードをファイル内でもっとも多く使っている改行コードに変換してから置換を行います。(若干時間がかかります)</p> <p>OFF の場合 テキストボックスの改行コードを変換せず、そのまま置換を行います。</p>
ワイルドカードの * を最長マッチにする	<p>ワイルドカードの * を最小マッチ(前方から検索)にするか最長マッチ(後方から検索)にするかを指定します。下の例で説明します。</p> <p>元の文字列 『Yamashita-Y のフリーソフトです。By Yamashita-Y』 ワイルドカード 『Y*Y』</p> <p>ON の場合 ※最長マッチ(後方から検索) 『Yamashita-Y のフリーソフトです。By Yamashita-Y』 は1箇所がワイルドカード Y*Y に該当します。</p> <p>OFF の場合 ※最小マッチ(前方から検索) 『Yamashita-Y のフリーソフトです。By Yamashita-Y』 は2箇所がワイルドカード Y*Y に該当します。</p>
ワイルドカードの * を単一行のみとする	<p>ワイルドカードの * を単一行のみとし、行単位で処理を行います。つまり、複数行を跨がないで * に一致させることができます。下の例で説明します。</p> <p>元の文字列 『ABC AB ABC』 ワイルドカード 『A*C』</p> <p>ON の場合 ※行単位 『ABC AB ABC』 1行目、3行目の2箇所に該当します。2行目は改行を含むので一致しません。</p> <p>OFF の場合 ※複数行(改行を含む) 『ABC AB ABC』 1行目と2行目から3行目の2箇所に該当します。</p>

<p>・ の意味を変更し、¥n を含めて一致させる</p>	<p>通常、 は ¥n で検索をやめて行単位で処理します。ON にすると ¥n を含めて一致させます。下の例で説明します。(最長マッチの場合)</p> <p>元の文字列 Yamashita-Y は TextSS の開発者です。 By Yamashita-Y パターン Y.*Y</p> <p>ON の場合は下記1箇所該当 『Yamashita-Y は TextSS の開発者です。 By Yamashita-Y』</p> <p>OFF の場合は下記2箇所該当 『Yamashita-Y は TextSS の開発者です。 By Yamashita-Y』</p>
<p>^ と \$ を行単位処理する (OFF はファイル単位)</p>	<p>^ と \$ の意味を変更し、文字列全体の先頭と末尾だけでなく、行の先頭と末尾にも一致するようにする。 ON の場合は行単位、OFF の場合はファイル単位です。</p> <p>元の文字列 Yamashita-Y は TextSS の開発者です。 Yamashita-Y のフリーソフトです。 パターン ^Yamashita-Y</p> <p>ON の場合は下記2箇所に該当 ※行単位で処理します。 『Yamashita-Y は TextSS の開発者です。 Yamashita-Y のフリーソフトです。』</p> <p>OFF の場合は下記1箇所に該当 ※ファイル単位で処理します。 『Yamashita-Y は TextSS の開発者です。 Yamashita-Y のフリーソフトです。』</p>
<p>ECMAScript 準拠の動作とする</p>	<p>ECMAScript 準拠の動作させます。この指定で、一部のメタ文字の意味が変更されます。 例えば、¥w は [a-zA-Z_0-9] と同じに、¥s は [^¥f¥n¥r¥t¥v] と同じに、¥d は [0-9] と同じになります。 詳しくは、『ECMAScript と標準一致の動作の比較』を参照してください。</p>
<p>16進数を1バイト毎に 入力する</p>	<p>入力した文字列を文字列とするか、16進数とするかを指定します。</p> <p>ON の場合 16進数として文字列を処理します。 OFF の場合 通常の文字列を入力します。コードページの指定が必要になります。</p>

ボタン／ラベル	説明
ファイル読込	テキストボックスにファイルを読み込みます。コードページは設定を応じて判定されます。あらかじめ文字列を作成しておき、それを読み込む場合に使用します。エクスプローラからファイルをドラッグ & ドロップして読み込むことも可能です。
再読込	直前に読み込んだファイルを再読込します。
クリア	テキストボックスをクリアします。
入力補助	<p>置換方法がワイルドカードまたは正規表現の時に、一般的なメタ文字の説明を表示します。バイナリー置換の場合は、文字列と16進数の変換を行うことができます。</p> <p>ワイルドカードまたは正規表現の場合（画面は正規表現のものです）</p>  <p>簡単な説明が表示されます。</p> <p>バイナリー置換の場合</p>  <p>文字列を指定したコードページで16進数書式に変換したり、その逆を行います。</p>
文字数:xx 改行数:xx	<p>テキストボックス内の文字数と改行数を表示します。</p> <p>文字数 半角全角問わず1文字としてカウントして表示します。 改行コードは Cr と Lf をそれぞれカウントします。</p> <p>改行数 改行コード(CrLf・Cr・Lf)の合計数を表示します。 右側に表示できるスペースがある場合は CrLf・Cr・Lf それぞれの改行数を表示します。</p>

4-1-5. キー操作

検索する文字列と置換する文字列では、次のキーボードの操作が行えます。

キー操作	説明
Ctrl + A	すべて選択
Ctrl + C	コピー
Ctrl + X	切り取り
Ctrl + V	貼り付け
Ctrl + Z	元に戻す
Ctrl + R	改行コード Cr (¥r) を入力
Ctrl + N	改行コード Lf (¥n) を入力

4-2. 置換方法 文字列の置換（通常）

入力した文字でそのまま検索及び置換を行います。もっとも基本的な検索と置換です。

検索する文字列のオプションスイッチ	置換する文字列のオプションスイッチ
テキストボックスの横スクロールを行う	テキストボックスの横スクロールを行う
大文字小文字を区別せずに照合を行う	
改行コードを置換するファイルに合わせる	改行コードを置換するファイルに合わせる

※詳細は各オプションスイッチの説明を参照してください。

サンプル 1

置換するファイルの内容の『TextSS』を『TextSS.net』に置換するサンプルです。

オプションスイッチは指定しません。

検索する文字列	TextSS
置換する文字列	TextSS.net
テストする文字列	TextSS は Yamashita-Y のフリーソフトウェアです。 このソフトは 1998 年に公開しています。 正式な名前は『複数の HTML & テキストファイル内を一括置換 TextSS』です。
テスト結果	TextSS.net は Yamashita-Y のフリーソフトウェアです。 このソフトは 1998 年に公開しています。 正式な名前は『複数の HTML & テキストファイル内を一括置換 TextSS.net』です。

サンプル 2 失敗例

置換するファイルの内容の『TextSS』を『TextSS.net』に置換するサンプルです。

オプションスイッチは指定しません。

半角大文字で入力したので置換できない失敗例です。

検索する文字列	TEXTSS
置換する文字列	TextSS.net
テストする文字列	TextSS は Yamashita-Y のフリーソフトウェアです。 このソフトは 1998 年に公開しています。 正式な名前は『複数の HTML & テキストファイル内を一括置換 TextSS』です。
テスト結果	※置換に成功しましたが文字列に変化がありません。

※オプションスイッチの『[大文字小文字を区別せずに照合を行う](#)』を ON にした場合は置換できます。

4-3.置換方法 文字列の置換（ワイルドカード）

検索する文字列に * ? # [] などのワイルドカードを指定することで、あいまい検索が行えます。また、置換する文字列に \$ を指定すれば、ワイルドカードに該当した文字列を使用することができるので、応用して順番の入れ替えや複写が行えます。ワイルドカードの簡単さを維持しながら正規表現的な指定ができます。メタ文字のグループ化や \$ は TextSS.net の独自のワイルドカードなので、一般的なワイルドカードより拡張されています。

ワイルドカードを通常の文字として扱う場合は [] で囲ってください。

検索する文字列のオプションスイッチ	置換する文字列のオプションスイッチ
テキストボックスの横スクロールを行う	テキストボックスの横スクロールを行う
大文字小文字を区別せずに照合を行う	
改行コードを置換するファイルに合わせる	改行コードを置換するファイルに合わせる
ワイルドカードの * を最長マッチにする	
改行コードを置換するファイルに合わせる	

※詳細は各オプションスイッチの説明を参照してください。

検索する文字列で利用できるワイルドカード

ワイルドカード	説明
*	任意の複数文字を示します。 全角、半角、英数字、改行を問わない任意の長さ0文字以上の文字を示します。 オプションで最短マッチと最長マッチを指定できます。詳細はオプション説明を参照してください。
?	任意の1文字を示します。 全角、半角、英数字を問わない任意の1文字を示します。改行コード (GrLf) は通常2文字分なので ?? と指定します。
#	任意の数字1文字を示します。 全角、半角を問わない数字の1文字を示します。数字に限定されるので半角 3 や全角3は当てはまりますが、英字や記号は当てはまりません。
[]	[] 内のいずれか 1 文字を示します。[abc] ならば、a か b か c を示します。
[-]	[-] 内の連続した文字範囲のいずれか 1 文字を示します。 [0-9] なら数字 1 文字を示し、[a-zA-Z] ならアルファベット 1 文字を示します。[A-D] ならキャラクターコードで A から D までのいずれかの文字を示します。必ずキャラクターコードの昇順で指定してください。[z-a] と指定した場合はエラーになり、[a-] として場合は a または - という意味になるので注意してください。
[!]	[!] 内の文字以外のいずれか 1 文字を示します。[!abc] ならば、a か b か c 以外の文字。
()	TextSS.net の独自のワイルドカードです。置換する文字列で \$ を使用する場合は必ず検索する文字列でグループ化してください。 ワイルドカードの * ? # [] を置換する文字列で使用する場合に使用します。特に ? や # など1文字で1文字の意味を持つワイルドカードをグループ化させると便利になります。年度を検索する場合に『????年度』と指定すると検索はできますが、それを置換する文字列で使うことはできません。これを『(?) (?) (?) (?) 年度』と個別に指定するか、『(????) 年度』としてグループ化させると置換する文字列で使えるようになります。この指定で置換する文字列で \$1 のように指定するとワイルドカードの該当文字を挿入することができます。カッコの中にワイルドカード以外も含めることができるので『(????年度)』のような指定もできます。
[*] [#] [?] [[] []] [() D]	ワイルドカードの * # ? [] () を通常の文字として使用する場合は [*] [#] [?] [[] []] [() D] として1文字つづ [] で囲みます。

置換する文字列で利用できるワイルドカード

ワイルドカード	説明
\$x	検索する文字列で () を使ってグループ化したワイルドカードの先頭からの番号 (x の部分に数字) を指定します。なお、\$0 または \$& はワイルドカードに該当した部分の全体という意味になります。 ※サンプルを見ると分かりやすいと思います。

サンプル 1

ワイルドカード * と ? を使い、その順番を \$ で入れ替えた例を示します。

オプションスイッチは指定しません。

検索する文字列	(Y*Y)*(???年)
置換する文字列	\$2 に \$1 が開発し、
テストする文字列	TextSS は Yamashita-Y のフリーソフトウェアです。 このソフトは 1998 年に公開しています。 正式な名前は『複数の HTML & テキストファイル内を一括置換 TextSS』です。
テスト結果	TextSS は 1998 年に Yamashita-Y が開発し、に公開しています。 正式な名前は『複数の HTML & テキストファイル内を一括置換 TextSS』です。

サンプル 2

ワイルドカード # を使い、その順番を \$ で入れ替えた例を示します。

オプションスイッチは指定しません。

検索する文字列	(####年)(##月)(##日)
置換する文字列	\$2\$3\$1
テストする文字列	日付を 2011 年 01 月 03 日と表記します。
テスト結果	日付を 01 月 03 日 2011 年と表記します。

4-4.置換方法 文字列の置換（正規表現）

.NET Framework で提供される Perl5 相当の正規表現を使った置換が行えます。置換 (Replace) をサポートしています。かなり複雑な検索や置換を行うことができます。詳しくは MSDN の『[正規表現言語要素](#)』を参照してください。

下記に正規表現の一般的なメタ文字の意味を説明します。説明は『[DOBON.NET プログラミング道](#)』より一部引用させていただきました。

検索する文字列のオプションスイッチ	置換する文字列のオプションスイッチ
テキストボックスの横スクロールを行う	テキストボックスの横スクロールを行う
大文字小文字を区別せずに照合を行う	
改行コードを置換するファイルに合わせる	改行コードを置換するファイルに合わせる
. の意味を変更し、¥n を含めて一致させる	
^ と \$ を行単位処理する (OFF はファイル単位)	
ECMAScript 準拠の動作とする	

※詳細は各オプションスイッチの説明を参照してください。

検索する文字列で利用できる正規表現

任意の1文字を示す文字(アトム)

文字	説明
.	改行文字 (¥n) 以外の任意の一文字。ただし [] 内では通常のピリオド文字になります。 ※オプションスイッチの『 . の意味を変更し、¥n を含めて一致させる 』で動作が異なります。
¥s	改行文字、タブ文字、半角及び全角のスペースを示します。
¥S	¥s 以外の文字を示します。
¥d	半角及び全角の 0 から 9 までの数字を示します。
¥D	¥d 以外の文字を示します。
¥w	単語に使用される文字 (アルファベット、数字、アンダーバー (_)、ひらがな、カタカナ、漢字など) を示します。
¥W	¥w 以外の文字を示します。
¥r	キャリッジリターンを示します。
¥n	ラインフィールド (改行文字) を示します。
¥t	タブを示します。
¥¥	メタ文字の意味を持たない通常の文字としての ¥ を示します。
[]	[] 内のいずれか 1 文字を示します。[abc] ならば、a か b か c を示します。
[^]	[^] 内の文字以外のいずれか 1 文字を示します。[^abc] ならば、a か b か c 以外の文字。
[-]	[-] 内の連続した文字範囲のいずれか 1 文字を示します。[0-9] なら数字 1 文字を示し、[a-zA-Z] ならアルファベット 1 文字を示します。必ずキャラクターコードの昇順で指定してください。
¥u0000	4 桁の 16 進数で表される Unicode 文字を示します。
¥x00	2 桁の 16 進数で表される ASCII 文字を示します。

文字列内の位置を表す文字

文字列内の位置を示し、他のメタ文字と組み合わせて使用します。

文字	説明
^	行またはファイルの先頭を示します。
\$	行またはファイルの末尾を示します。ただし、末尾が ¥n の時は、その前と一致します。 (末尾が ¥n でも末尾で一致させるには、¥z を使います)
¥b	単語の境界 (¥w と ¥W の間) と一致します。(ただし [] 内ではバックスペース文字になります)
¥B	¥b 以外の境界を示します。

※ ^ と \$ は、オプションスイッチの『[^ と \\$ を行単位処理する \(OFF はファイル単位\)](#)』で動作が異なります。

文字の繰り返しを表す文字(量指定子)

文字(または、グループ)の繰り返しを示します。

文字	説明
*	直前の文字が 0 回以上繰り返す。
+	直前の文字が 1 回以上繰り返す。
?	直前の文字が 0 回または 1 回繰り返す。
{n, m}	直前の文字が n 回以上 m 回以下繰り返す。
{n}	直前の文字が n 回繰り返す。
{n, }	直前の文字が n 回以上繰り返す。
*?	最短マッチ(先頭から検索)で、0 回以上の繰り返しを示します。? は *, +, ?, {} の後に付けて、最短マッチ(後方から検索)を示すことができます。 最長マッチ(後方から検索)とは? パターン Y.*Y 元の文字列『Yamashita-Y のフリーソフトです。By Yamashita-Y』 はピンクの部分1箇所が Y.*Y に該当します。 最小マッチ(前方から検索)とは? パターン Y.*?Y 元の文字列『Yamashita-Y のフリーソフトです。By Yamashita-Y』 はピンクの部分2箇所 Y.*?Y に該当します。

選択、グループ化などを表す文字

グループ化させる場合に使用します。. NET Framework にはグループに名前(あるいは番号)を付けることができるという特徴があります。グループに名前を付けても付けなくても、グループには 1 から連番で番号が付けられます(番号 0 はパターン全体)。

文字	説明
	で区切られた文字列のいずれか(論理和)を示します。
()	グループ化する箇所を示します。
(?<name>)	グループに名前(あるいは番号)を示します。(< > の代わりに ' で括ることもできます)
(?:)	キャプチャしないグループを示します。
(?=)	直後にこのパターンが現れることを確認する(ゼロ幅の肯定的先読みアサーション)。
(?!)	直後にこのパターンが現れないことを確認する(ゼロ幅の否定的先読みアサーション)。
(?<=)	直前にこのパターンが現れることを確認する(ゼロ幅の肯定的後読みアサーション)。
(?!)	直前にこのパターンが現れないことを確認する(ゼロ幅の否定的後読みアサーション)。

前方参照(後方参照)を表す文字

グループ化してキャプチャした文字列を後から参照することができます。これが前方参照(後方参照)です。キャプチャした文字列をパターンに埋め込むようなことができます。

文字	説明
¥number	番号が number のグループと一致した文字列として使用できます。
¥k<name>	名前が name のグループと一致した文字列として使用できます。(< > の代わりに ' で括ることもできます)

置換する文字列で利用できる正規表現

前方参照(後方参照)を表す文字

前方参照(後方参照)と同じように置換パターン内で以下のような特殊文字を使用することができます。

文字	説明
\$number	番号が number のグループと一致した文字列として使用できます。
\${name}	名前が name のグループと一致した文字列として使用できます。(〈 〉 の代わりに ' で括弧することもできます)
\$&	パターン全体と一致した文字列として使用できます。\$& と &0 は同じ意味です。
\$0	

サンプル 1

各行の最初と最後に " を付ける例を示します。

検索する文字列のオプションスイッチの『. の意味を変更し、¥n を含めて一致させる』及び、『^ と \$ を行単位処理する (OFF はファイル単位)』を ON にします。

検索する文字列	^.*\$
置換する文字列	"\$0"↵ (最後の"で改行)
テストする文字列	TextSS は Yamashita-Y のフリーソフトウェアです。 このソフトは 1998 年に公開しています。 正式な名前は『複数の HTML & テキストファイル内を一括置換 TextSS』です。
テスト結果	"TextSS は Yamashita-Y のフリーソフトウェアです." "このソフトは 1998 年に公開しています." "正式な名前は『複数の HTML & テキストファイル内を一括置換 TextSS』です。"

サンプル 2

年月日の順番を入れ替えて月を複写する例を示します。

オプションスイッチは指定しません。

検索する文字列	TextSS.net は 2011 年 09 月 01 日に公開予定です。
置換する文字列	(¥d¥d¥d¥d 年) (¥d¥d 月) (¥d¥d 日)
テストする文字列	\$2\$3\$1 (遅くても\$2 末)
テスト結果	TextSS.net は 09 月 01 日 2011 年 (遅くても 09 月末) に公開予定です。

サンプル 3

HTML タグを削除する例を示します。

オプションスイッチは指定しません。

検索する文字列	<("[^"]*" '[^']*' "[^"]*"')*>
置換する文字列	(空欄)
テストする文字列	複数の HTML & テキストファイルを一括置換 TextSS.net</TD> <TD width="100" align="center">Ver 5.00</TD>
テスト結果	複数の HTML & テキストファイルを一括置換 TextSS.net Ver 5.00

4-5. 置換方法 特殊変換

英字の大文字と小文字の相互変換、半角と全角の相互変換、ひらがなとカタカナの相互変換などの変換を行います。また、保存するときのコードページを変更することもできます。特殊変換では、文字列の入力などは行わず、変換したい操作のスイッチ ON とコードページを選択します。

検索と置換の文字列の画面

特殊変換の設定

<input type="checkbox"/> 半角英字の小文字を大文字に変換	abc ⇒ ABC
<input type="checkbox"/> 半角英字の大文字を小文字に変換	ABC ⇒ abc
<input type="checkbox"/> 半角英字を全角に変換	Abc ⇒ A b c
<input type="checkbox"/> 全角英字の小文字を大文字に変換	a b c ⇒ A B C
<input type="checkbox"/> 全角英字の大文字を小文字に変換	A B C ⇒ a b c
<input type="checkbox"/> 全角英字を半角に変換	A b c ⇒ Abc
<input type="checkbox"/> 半角数字を全角数字に変換	123 ⇒ 1 2 3
<input type="checkbox"/> 全角数字を半角数字に変換	1 2 3 ⇒ 123
<input type="checkbox"/> 半角かなを全角カタカナに変換	アイウ ⇒ アイウ
<input type="checkbox"/> 半角かなを全角ひらがなに変換	アイウ ⇒ あいう
<input type="checkbox"/> 全角カタカナを半角かなに変換	アイウ ⇒ アイウ
<input type="checkbox"/> 全角カタカナを全角ひらがなに変換	アイウ ⇒ あいう
<input type="checkbox"/> 全角ひらがなを半角かなに変換	あいう ⇒ アイウ
<input type="checkbox"/> 全角ひらがなを全角カタカナに変換	あいう ⇒ アイウ
<input type="checkbox"/> 中国語の繁体字を簡体字に変換	言詞 ⇒ 言詞
<input type="checkbox"/> 中国語の簡体字を繁体字に変換	言詞 ⇒ 言詞
<input type="checkbox"/> 改行コードを CrLf に変換	
<input type="checkbox"/> 改行コードを Cr に変換	
<input type="checkbox"/> 改行コードを Lf に変換	

出力時のコードページ
変更しない

特殊変換の設定

どのような変換を行うのかを設定します。機能名で意味がわかると思うので特に説明は行いません。なお、『小文字と大文字に変換』と『大文字を小文字に変換』など、相反する2つを指定するとそのまま実行され、速度が遅くなるだけで意味が無い置換になるので注意してください。置換は上から順番に実行されるのでそれを考慮して選択し、必要に応じて複数回分けて特殊変換を行ってください。

日本語に対して『中国語の繁体字を簡体字に変換』などを指定すると文字化けするので注意してください。

出力時のコードページ

出力時のコードページを変更する場合に指定します。複数指定した場合は最後のコードページで出力されます。例えば、S-JIS、EUC、UTF-16 の3つ指定しても途中の S-JIS、EUC には変換されず、最後の UTF-16 で出力されます。UTF は BOM の有無も選択できます。

初期設定では右図のコードページが表示されます。OSがサポートするすべてのコードページを表示させる場合は、『6-2. 動作設定1 詳細設定』の『日本で使われるコードページのみ使用する』を OFF にしてください。

変更しない
shift_jis (932)
utf-16 (1200) BOM有
utf-16 (1200) BOM無
utf-16BE (1201) BOM有
utf-16BE (1201) BOM無
x-mac-japanese (10001)
IBM290 (20290)
EUC-JP (20932)
iso-2022-jp (50220)
csISO2022JP (50221)
iso-2022-jp (50222)
euc-jp (51932)
utf-8 (65001) BOM有
utf-8 (65001) BOM無

4-6. 置換方法 バイナリー置換

TextSS Ver 3 ユーザー向けのバイナリー置換です。旧バージョンは日本語以外の2バイト文字に対応していなかったため必要な機能でしたが、Ver 5 からUnicodeに対応しているので日本語以外の2バイト文字も通常の置換で行えるので、基本的に使用しません。互換性のための機能です。バイナリーファイルの置換を行う場合に使用しますが、単純に置換するとバイナリーファイル(特にプログラム)は壊れます。

4-6-1. 文字列をそのまま入力する

オプションスイッチの『[16進数を1バイト毎に入力する](#)』を OFF にして、任意の文字列を入力します。コードページは必ず指定してください。

入力例

あいうえお

なぜコードページの選択が必要なのか？

文字列を16進数に変換する場合、コードページによって結果が異なります。

例えば、『あいうえお』を16進数で表す場合、

Shift-JIS ⇒ 82, A0, 82, A2, 82, A4, 82, A6, 82, A8

EUC ⇒ A4, A2, A4, A4, A4, A6, A4, A8, A4, AA

UTF-8 ⇒ E3, 81, 82, E3, 81, 84, E3, 81, 86, E3, 81, 88, E3, 81, 8A

となり、文字列をバイナリーデータに変換する場合にコードページの指定が必須になります。

4-6-2. 16進数を直接入力する

オプションスイッチの『[16進数を1バイト毎に入力する](#)』を ON にして、次の書式で入力します

入力例

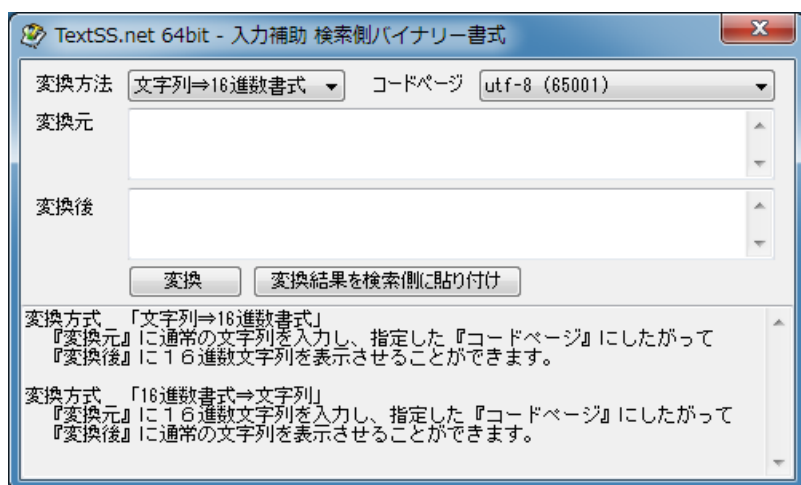
82, A0, 82, A2, 82, A4, 82, A6, 82, A8; コメントも入れられます

書式の説明

1バイト毎に16進数(2桁)をカンマ区切りで入力します。半角セミコロン ; 以降は改行までをコメントとして文字を入力できます。この書式で入力しないとエラーになります。コードページの指定は不要です。

4-6-3. バイナリー置換の入力補助

文字列を指定したコードページで16進数書式に変換したり、その逆を行います。



4-7. テストエリア

検索する文字列と置換する文字列に入力した内容でテストを行うことができます。テストする文字列が置換され、テスト結果に表示されます。ファイルを置換する前に、十分にテストすることをお勧めします。

機能	説明
テストする文字列	テストする文字列(置換されるの前の文字列)を入力します。
編集中のパターンでテスト	画面上の『検索する文字列』と『置換する文字列』で置換を行い、その結果を『テスト結果』に表示します。ファイルに対して置換を行う前にここでしっかりテストしておけば本番の置換での失敗を最小限にすることができます。
すべてのパターンでテスト	画面右側の『検索と置換のパターンリスト』に登録した実行スイッチが ON のすべての置換を一挙に実行してテストします。複数の置換を一括実行したときに、正しく置換できるか確認することができます。
ファイル読み込	テストする文字列にファイルを読み込みます。コードページは設定に応じて判定されます。置換するファイルを読み込んでテストすることができます。 エクスプローラからファイルをドラッグ & ドロップして読み込むことも可能です。
再読み込	直前に読み込んだファイルを再読み込みします。
クリア	テストする文字列をクリアします。
テスト結果	テスト結果が表示されます。テストする文字列(置換されるの前の文字列)が置換された結果が表示されます。
文字数:xx 改行数:xx	テキストボックス内の文字数と改行数を表示します。 文字数 半角全角問わず1文字としてカウントして表示します。 改行コードは Cr と Lf をそれぞれカウントします。 改行数 改行コード(CrLf・Cr・Lf)の合計数を表示します。 右側に表示できるスペースがある場合は CrLf・Cr・Lf それぞれの改行数を表示します。
…で開く 開く	TextSS.net で開く 、メモ帳、ブラウザ、 登録したアプリケーション でテスト結果を表示します。ブラウザでホームページとしてテスト結果を確認することができます。 ※下記説明のコードページを指定する必要があります。
コードページの選択リスト	「…で開く」を選択した時に、一時作成するファイルのコードページを指定します。 「Meta タグで判定」を選択した場合は、テスト結果の charset を探して判定します。 例えば、 <code><meta http-equiv="Content-Type" content="text/html; charset=Shift_JIS"></code> と指定がある場合は、Shift-JIS で一時ファイルを作成して開きます。 それ以外のコードページを指定すると、指定したコードページで一時ファイルを作成して開きます。 OSがサポートするすべてのコードページを表示させる場合は、『6-2. 動作設定1 詳細設定』の『日本で使われるコードページのみ使用する』を OFF にしてください。

※バイナリー置換をテストする場合に『テストする文字列』に表示される『コードページ』を選択してください。

4-8. 検索と置換のパターンリスト

『置換方法』及び『検索する文字列』と『置換する文字列』を1つのパターンとして、それを複数登録させることができます。これにより、複数の置換を一括実行させることができます。また、パターンリストはコピー＆ペーストやインポート／エクスポートが行えるので、Microsoft Excel などで加工することもできます。

4-8-1. パターンリストの列

パターンの内容を表示しています。各列の説明は下記を参照してください。

列	説明
実行スイッチ	『検索と置換のパターンリスト』で選択している行の置換を行うかを設定します。このスイッチは画面左側の『すべてのパターンでテスト』または『5. 置換の開始』画面の『すべてのパターンの検索と置換を行う』の時だけ設定が反映されます。つまり、複数パターンの置換を行うときだけ反映され、選択したパターンだけの置換の時は無視されて置換が実行されます。
行	『検索と置換のパターンリスト』の行番号を示しています。置換は行番号順に行われるので、複数置換を行う場合は順番に注意してください。
置換方法	画面左側で選択した『置換方法』が略名で表示されます。
コメント	画面左側で登録した『コメント』が表示されます。
検索文字列	画面左側で登録した『検索する文字列』が表示されます。特殊変換の時は選択した変換の略称が表示されます。
置換文字列	画面左側で登録した『置換する文字列』が表示されます。
検索オプション	画面左側で登録した『オプションスイッチ』の内容が表示されます。特殊変換の時は選択したコードページが表示されます。
置換オプション	

4-8-2. 行の操作とポップアップメニュー（右クリック）

パターンリストの下にある操作パネル(ボタン)と、パターンリストを右クリックしたときに表示されるポップアップメニューの使い方を説明します。

※操＝操作パネル、ポ＝ポップアップメニュー(右クリック)に機能が存在することを示します。

機能	操	ポ	説明
操作履歴	○		行の追加・複写・削除など、パターンリストに対する操作の履歴保持回数を示しています。表示されている回数だけ元に戻せます。 ただし、『4-8-4. 編集している検索と置換のパターンリスト』を変更したり、極端にメモリが少ない場合は表示が0になり、履歴が消えて元に戻せなくなります。
行の追加	○	○	新規の行を追加し、新たなパターンを登録できるようにします。
行の複写		○	選択している行を下に複写します。
行の削除	○	○	選択している行を削除します。
元に戻す		○	行の追加・複写・削除など、パターンリストに対する操作を1つ前の状態に戻します。戻せる回数は操作履歴に表示されています。
やり直し		○	『元に戻す』をやり直し、戻す前の状態に戻します。『やり直し』以外の操作を行うまでやり直しできます。
コピー(選択行)	○	○	選択している行をクリップボードへコピーします。(※1)
コピー(すべての行)		○	すべての行をクリップボードへコピーします。(※1)
貼り付け(選択行の下に新規挿入)	○	○	クリップボードの内容を選択行の下に新規行として貼り付けます。(※1)
貼り付け(選択行に上書き)	○	○	クリップボードの内容を選択行に上書きして貼り付けます。(※1)
エクスポート		○	すべての行をCSVタブ区切りファイルとして出力します。(※1)
インポート		○	CSVタブ区切りファイルを選択行の下に読み込みます。(※1)

※1 注意事項と出力情報の説明は下記及び次ページを参照してください。

4-8-3. コピー＆ペースト及びインポート／エクスポートの注意事項

パターンリストのコピー＆ペースト及びインポート／エクスポートは TextSS.net 間での動作は特に問題ありませんが、他のアプリケーションで使用する場合は注意が必要です。

テキスト形式(クリップボードにセットされる情報)

CSVタブ区切り

文字列に " または 改行 または タブ を含む場合は " で囲みます。(半角ダブルコーテーション)

文字列の " は "" にエスケープされます。

パターンリストの『実行スイッチ』から『置換オプション』の8列が出力されます。

コピー(選択行)の場合はヘッダ名なし、コピー(すべての行)及びエクスポート／インポートではヘッダありになります。ペースト時はヘッダ有無を自動判断します。(すべての列名がヘッダ名と同じ場合は無視します)

行番号は常に無視します。

コードページ

クリップボードは Unicode 、ファイルは『6-3. 動作設定2』の『CSV 出力やログファイルの出力コードページ』で指定したコードページで出力されます。(初期値はシフト JIS)

互換性の問題

文字列に区切り文字のタブを含んでいる場合、使用するアプリケーションで正常に動作しない場合や、削除される場合があります。Microsoft Excel では文字列中のタブは削除されます。TextSS.net 以外で編集する場合は注意してください。

TextSS.net では文字列中にタブを含んでいても " で囲まれていれば正しく処理されます。

出力情報

設定情報は略称で出力されるので、直接編集せず TextSS.net の画面で操作することをお勧めします。

※大文字と小文字、全角と半角が完全に区別されるので入力時は注意してください。

※置換方法により指定できるオプションスイッチは異なります。無効なものは無視します。

置換方法略称	正式名称
通常置換	文字列の置換(通常)
ワイルドカード	文字列の置換(ワイルドカード)
正規表現	文字列の置換(正規表現)
特殊変換	特殊変換
バイナリー	バイナリー置換

オプションスイッチ略称	正式名称	備考
[横スクロール]	テキストボックスの横スクロールを行う	
[英字大小区別無]	大文字小文字を区別せずに照合を行う	
[改行合せ]	改行コードを置換するファイルに合わせる	
[WC 最長マッチ]	ワイルドカードの * を最長マッチにする	ワイルドカード専用
[WC 単一行]	ワイルドカードの * を単一行のみとする	ワイルドカード専用
[ヒールド変更]	. の意味を変更し、¥n を含めて一致させる	正規表現専用
[複数行モード]	^ と \$ を行単位処理する(OFF はファイル単位)	正規表現専用
[ECMAScript]	ECMAScript 準拠の動作とする	正規表現専用
[16 進数入力]	16 進数を 1 バイト毎に入力する	バイナリー置換専用

特殊置換の場合、検索文字列に次のオプションスイッチがセットされます。

オプションスイッチ略称	正式名称
[abc⇒ABC]	半角英字の小文字を大文字に変換 abc ⇒ ABC
[ABC⇒abc]	半角英字の大文字を小文字に変換 ABC ⇒ abc
[Abc⇒A b c]	半角英字を全角に変換 Abc ⇒ A b c
[a b c⇒A B C]	全角英字の小文字を大文字に変換 a b c ⇒ A B C
[A B C⇒a b c]	全角英字の大文字を小文字に変換 A B C ⇒ a b c
[A b c⇒Abc]	全角英字を半角に変換 A b c ⇒ Abc
[123⇒1 2 3]	半角数字を全角数字に変換 123 ⇒ 1 2 3
[1 2 3⇒123]	全角数字を半角数字に変換 1 2 3 ⇒ 123
[ｱｲｳ ⇒アイウ]	半角カタカナを全角カタカナに変換 ｱｲｳ ⇒ アイウ
[ｱｲｳ ⇒あいう]	半角カタカナを全角ひらがなに変換 ｱｲｳ ⇒ あいう
[アイウ⇒ｱｲｳ]	全角カタカナを半角カタカナに変換 アイウ ⇒ ｱｲｳ
[アイウ⇒あいう]	全角カタカナを全角ひらがなに変換 アイウ ⇒ あいう
[あいう⇒ｱｲｳ]	全角ひらがなを半角カタカナに変換 あいう ⇒ ｱｲｳ
[あいう⇒アイウ]	全角ひらがなを全角カタカナに変換 あいう ⇒ アイウ
[言詞⇒言词]	中国語の繁体字を簡体字に変換 言詞 ⇒ 言词
[言词⇒言詞]	中国語の簡体字を繁体字に変換 言词 ⇒ 言詞
[CrLf]	改行コードを CrLf に変換
[Cr]	改行コードを Cr に変換
[Lf]	改行コードを Lf に変換

その他

特殊変換のコードページは『検索オプション』に数字でセットされます。シフトJISなら『932』です。

バイナリー置換のコードページは『検索/置換オプション』に [CP_xxx] の形式でセットされます。シフトJISなら [CP_932] です。

4-8-4.編集している検索と置換のパターンリスト

パターンリスト自体の新規作成や削除などの操作を行います。

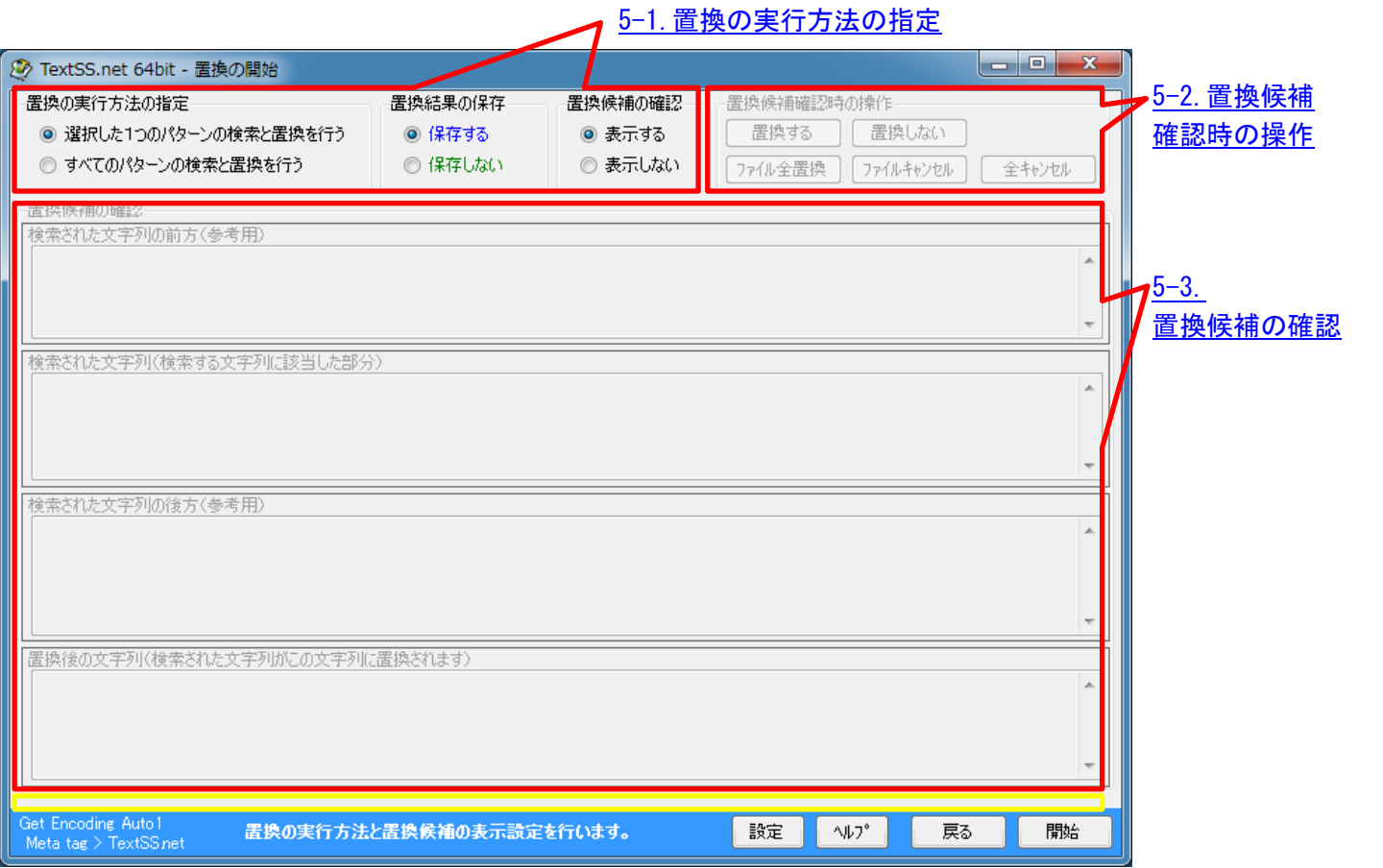
機能	説明
編集している検索と置換のパターンリスト	現在編集しているパターンリストの名前を表示しています。パターンリストを複数登録している場合はここで切り替えることができます。
作成	パターンリストを新規作成します。
削除	選択しているパターンリストを削除します。 同名のファイルがゴミ箱に残るので間違えて削除してしまった場合は TextSS.net を終了し、ゴミ箱でファイルを復元してから TextSS.net を起動すると復活できる場合があります。
変更	パターンリストの名前を変更します。
複写	パターンリストを複写します。

パターンリストの保存場所

パターンリストは TextSS.net と同じフォルダの『ユーザー置換リスト』に作成されます。パターンリストの名前と同じファイル名になります。自分でバックアップしたり、他のパソコンにコピーする場合は直接コピーしてください。ただし、必ず TextSS.net を終了した状態で操作してください。起動時は不定期に書き込みが行われるので、パターンリストが壊れてしまうことがあります。

5.置換の開始

指定した条件で置換を開始します。この操作で『3. ファイルリスト』に登録したファイルが『4. 検索と置換の文字列』の内容で置換されます。



※黄枠の部分に置換中のファイル名が表示されます。

5-1.置換の実行方法の指定

置換の実行方法を指定します。

置換の実行方法の指定	説明
選択した1つのパターンの検索と置換を行う	直前に入力した『検索する文字列』と『置換する文字列』で置換を行います。
すべてのパターンの検索と置換を行う	『4-8. 検索と置換のパターンリスト』で実行スイッチがONのパターンで一括置換を行います。

置換結果の保存	説明
保存する	置換結果をファイルに保存します。ファイルリストの置換結果は青文字で表示されます。
保存しない	置換結果を保存せず、検索結果を画面に表示します。ファイルリストの置換結果は緑文字で表示されます。事前に何か所置換されるのか確認する場合に使用します。

置換候補の確認	説明
表示する	置換候補を画面の下部に表示します。
表示しない	候補確認せず、一気に高速に置換します。

5-2.置換候補確認時の操作

『置換候補の確認』を『表示する』にした場合、置換候補を見つけた時にどのような操作を行うかを選択します。

機能	説明
置換する	画面の内容の通り置換を行います。
置換しない	置換せず、次の置換候補を検索します。 ※置換候補の確認を『表示しない』にした場合は選択できません。
ファイル全置換	現在置換しているファイルの置換をすべて実行し、次のファイルに進みます。 ※置換候補の確認を『表示しない』にした場合は選択できません。
ファイルキャンセル	現在置換しているファイルの置換をキャンセルし、次のファイルに進みます。 ※置換候補の確認を『表示しない』にした場合は選択できません。
全キャンセル	すべての置換をキャンセルします。既に置換が行われて保存されたファイルはそのままになるので注意してください。

5-3.置換候補の確認

『置換候補の確認』を『表示する』にした場合、置換候補を見つけた時、次のように表示されます。

置換の例

検索する文字列	TextSS
置換する文字列	TextSS.net
置換前の文字列	複数の HTML & テキストファイル内を一括置換 TextSS はフリーソフトです。
置換結果	複数の HTML & テキストファイル内を一括置換 TextSS.net はフリーソフトです。



① 置換候補の前方が表示されます。

② 検索する文字列に該当した部分が表示されます。

③ 置換候補の後方が表示されます。

④ 置換内容が表示されます。
内容を修正することが可能です。

前方

検索文字列

後方

複数の HTML & テキストファイルを一括置換

TextSS

はフリーソフトです。

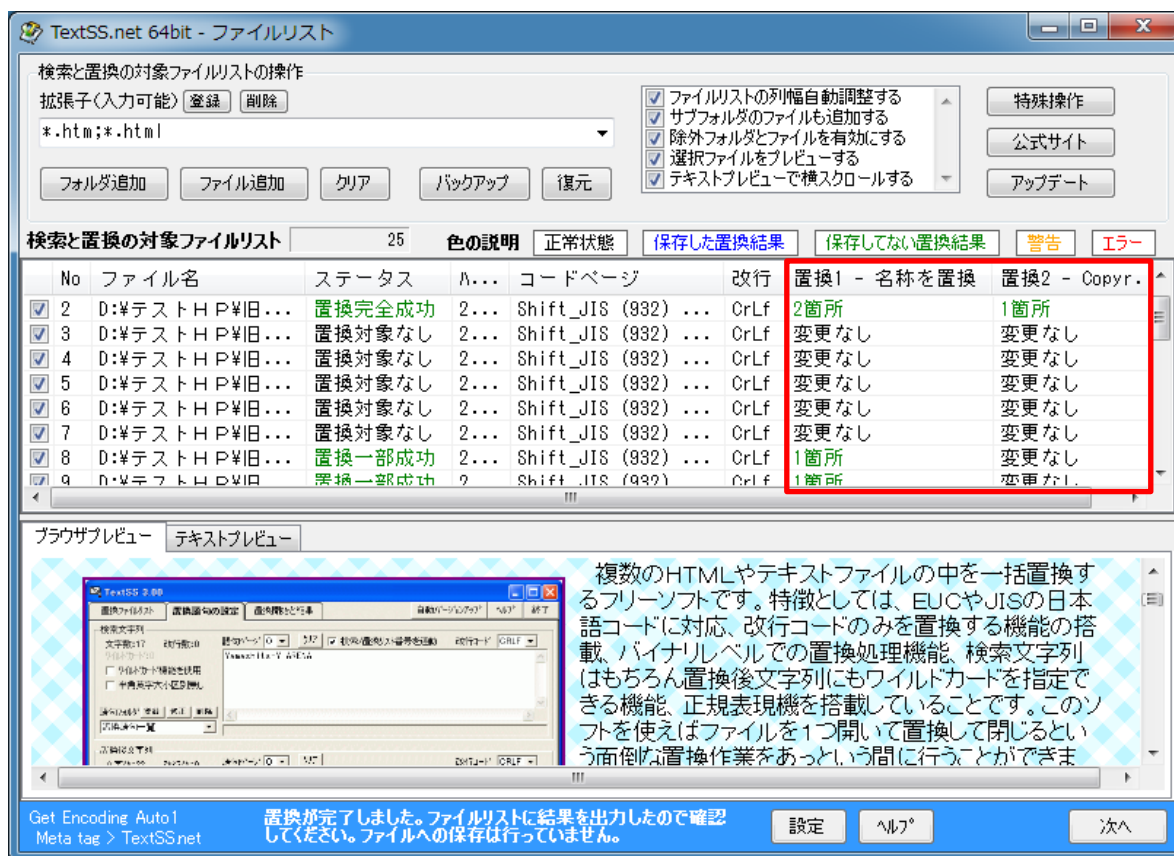


TextSS.net

置換後の文字列

5-4. ファイルリストで置換結果を確認

置換が終わるとファイルリストの画面に戻ります。ファイル登録時に無かった『置換1』などの列がリストの右側に追加され、置換状況を確認することができます。



※赤枠の部分から右側に置換結果が表示されます。

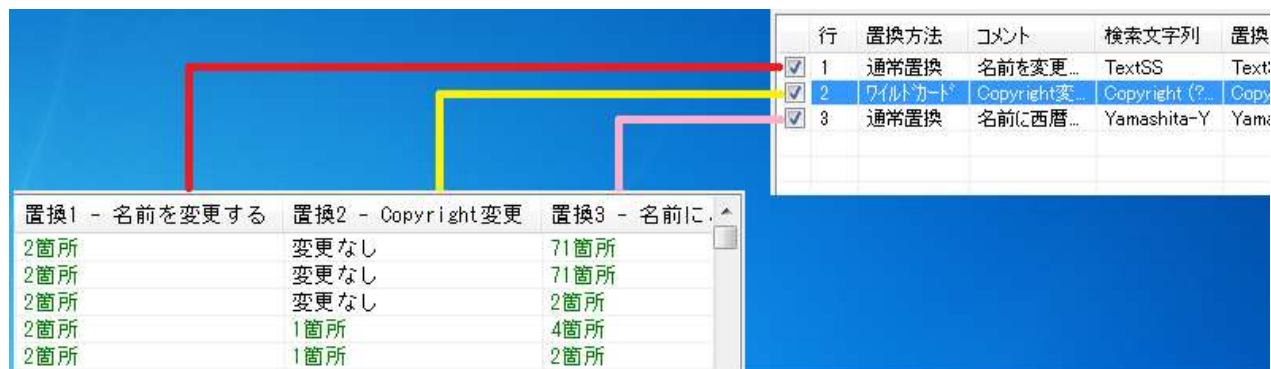
※『6-1. 動作設定1 基本設定』の『ファイルリストの右側に置換詳細結果を表示する』を OFF にした場合は列自体が表示されません。

文字色	説明
青	置換に成功し、ファイルの出力も成功したことを示します。
緑	検索のみ行い、置換結果を保存しなかったことを示します。(画面上で保存しないを選択した場合)
黒	検索条件に該当しないので置換せず、ファイルの出力も行わなかったことを示します。 ※Windows で設定した文字の色になります。
赤	エラーが発生したことを示します。主にワイルドカードや正規表現の指定が不適切だったり、ファイルに書き込めない場合に発生します。
橙	ファイルリストの置換実行スイッチが OFF なので置換を無視したことを示します。 また、コードページの判別に失敗(設定画面の『6-7. コードページ設定』を参照)した場合にも警告として示されます。

ステータス	説明
置換完全成功	右側の『置換1』以降の結果がすべて成功(置換できた)したことを示します。
置換一部成功	右側の『置換1』以降の結果が一部成功し、一部検索対象が見つからなかったことを示します。(一括置換で、一部のパターンに該当しなかったことを示します。)
置換対象なし	右側の『置換1』以降の結果がすべて『変更なし』を示します。
置換エラー	右側の『置換1』以降の結果で『エラー』が含まれることを示します。
置換無視	置換実行スイッチが OFF なので置換を無視したことを示します。
置換全キャンセル	置換候補の確認で『すべてキャンセル』を選択したことを示します。以降のファイルは置換を行っていません。

右側の『置換1』以降と検索と置換のパターンリストの関係

『置換の実行方法の指定』で『すべてのパターンの検索と置換を行う』を選択した場合は、図右側の『検索と置換のパターンリスト』と図左側のファイルリストが行と置換番号で結びつく関係になります。また、コメントを入力していれば『置換1 - 名前の変更』のように列名に表示されます。



行	置換方法	コメント	検索文字列	置換
1	通常置換	名前を変更...	TextSS	Text
2	ワイルドカード	Copyright変...	Copyright (?...	Copy
3	通常置換	名前に西暦...	Yamashita-Y	Yam

置換1 - 名前を変更する	置換2 - Copyright変更	置換3 - 名前に...
2箇所	変更なし	71箇所
2箇所	変更なし	71箇所
2箇所	変更なし	2箇所
2箇所	1箇所	4箇所
2箇所	1箇所	2箇所

右側の『置換1』以降に表示される検索結果内容について

右側の『置換1』以降に表示される検索結果内容について

置換方法	説明
文字列の置換 (通常)	『xxx 箇所』の形式で何箇所置換したのが表示します。 『マルチスレッド』で処理した場合は『正常』や『変化なし』の形式で表示します。
文字列の置換 (ワイルドカード)	『xxx 箇所』の形式で何箇所置換したのが表示します。 『マルチスレッド』で処理した場合は『正常』や『変化なし』の形式で表示します。
文字列の置換 (正規表現)	『xxx 箇所』の形式で何箇所置換したのが表示します。 『マルチスレッド』で処理した場合は『正常』や『変化なし』の形式で表示します。
特殊変換	『正常』や『変化なし』の形式で表示します。
バイナリー置換	『xxx 箇所』の形式で何箇所置換したのが表示します。 『マルチスレッド』で処理した場合は『正常』や『変化なし』の形式で表示します。

『正常』や『変化なし』の形式で表示される場合、置換数は表示できません。また、バイナリー置換以外でコードページが判定できない場合は『コードページ不明』と表示し、置換候補の確認で『ファイルキャンセル』を選択した場合は『置換キャンセル』と表示します。

6.設定画面

TextSS.net の設定変更と参考情報を表示します。各画面の説明を参照してください。

※設定をすべて初期化する場合は Shift キーを押下しながら設定ボタンをクリックします。

この操作で次回起動時に初期化されます(キャンセル不可)。検索と置換のパターンリストは初期化されません。

※手動で削除する場合、TextSS.net 直下の『ユーザー設定』フォルダをフォルダごと削除してください。

6-1.動作設定 1 基本設定

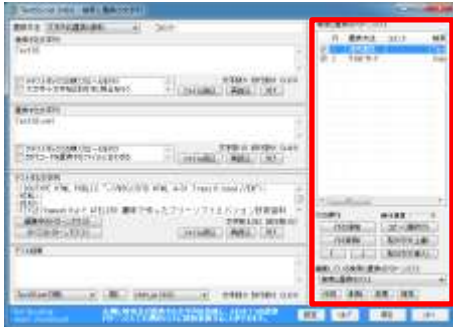
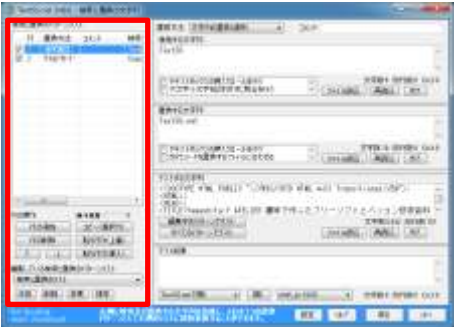
TextSS.net の動作を変更します。好みの設定で TextSS.net を使用することができます。

機能	説明
置換の開始画面の設定内容を保存する	置換の開始 画面の『置換の実行方法の指定』、『置換結果の保存』、『置換候補の確認』の設定内容を保存するかを設定します。ON にした場合は『検索と置換のパターンリスト』別に設定を保存します。 デフォルト: ON
『置換結果の保存』の初期値を『保存しない』にする	置換の開始 画面の『置換結果の保存』を常に初期値として『保存しない』を選択するかを設定します。 デフォルト: OFF
置換の開始前に確認メッセージを表示する	置換の開始 画面の『開始』ボタンで置換を開始する前に確認メッセージを表示するかを設定します。 デフォルト: ON
ファイルリストの右側に置換詳細結果を表示する	ファイルリスト の右側に置換の詳細結果を表示するかを設定します。ON の場合、置換後にファイルリストの右側に置換1～3のように列が追加されて詳細を確認することができます。 デフォルト: ON ※OFF にすると置換結果の詳細が表示されませんが、置換処理が速くなります。
削除やクリア処理は確認メッセージを表示する	『削除』ボタンや『クリア』ボタンなどの処理で確認メッセージを表示するかを設定します。 デフォルト: ON
バックアップ処理は確認メッセージを表示する	『バックアップ』などの処理で確認メッセージを表示するかを設定します。 デフォルト: ON
ファイルの復元処理は確認メッセージを表示する	『復元』などの処理で確認メッセージを表示するかを設定します。 デフォルト: ON
クリアや終了時にバックアップファイルを削除する	『クリア』や TextSS.net の終了時に作成した拡張子 .bak のバックアップファイルを削除するかを設定します。 デフォルト: ON ※OFF にすると自分で削除しない限り残ります。
ファイルリストにファイル登録時にバックアップする	ファイルリスト にファイルを登録するときにバックアップするかを設定します。OFF にすると置換に失敗しても復元できなくなるので注意してください。 デフォルト: ON ※OFF にするとファイルリストへの登録が早くなりますが、復元できなくなります。
画面のサイズや位置を記憶する	終了時の画面のサイズや位置を記憶し、次回起動時に復元するかを設定します。 デフォルト: ON
描画速度を高速化する	画面切替時のフェードインアウトを省略し、描画速度の高速にします。グラフィック性能が低い場合に ON にすると画面切替が早くなりますが、描画中の画面が見えて美しさが劣ります。 デフォルト: OFF ※起動時のタイトルのフェードインに500ミリ秒以上かかる場合は、設定にかかわらず ON(高速描画)として動作します。
起動時にバックグラウンドでアップデート確認を行う	起動時にアップデートのチェックをバックグラウンドで行うかを指定します。 デフォルト: ON

ツールチップを表示する(*次回起動有効)	ボタンなどにカーソルを近づけた時に、簡単な説明を表示するかを設定します。 デフォルト:ON
改行を記号表示する(多少チラつきます)	テキストボックスで通常表示されない改行を ↓ 記号で表示します。 疑似的対応なので表示するときにチラつく場合があります。また、テキストエディタのような完全なものではありません。 デフォルト:OFF ※CrLf 以外の Cr 又は Lf のみの場合、正しく描画できません。 ※起動時のタイトルのフェードインに500ミリ秒以上かかる場合は、設定にかかわらず OFF (表示しない) として動作します。
テストする文字列とテスト結果で横スクロールする	検索と置換の文字列 設定画面の「テストする文字列」と「テスト結果」で、テキストボックスの横スクロールを行うかを設定します。スクロールさせても、1行が約 1000 文字を超えると自動的に折り返し表示します。 デフォルト:ON
置換候補確認画面で横スクロールする	置換の開始 画面のテキストボックスで横スクロールを行うかを設定します。スクロールさせても、1行が約 1000 文字を超えると自動的に折り返し表示します。 デフォルト:ON

6-2.動作設定 1 詳細設定

機能	説明
ファイルリストの登録時にコードページも表示する	ファイルリスト にファイルを登録するときにコードページを調査して表示するかを設定します。ON/OFF にかかわらず置換を行うときに必ず調査して表示されます。 デフォルト: ON ※OFF にするとファイルリストへの登録が早くなります。
ファイルリストにコードページを表示したとき、改行コードも表示する	ファイルリスト にファイルを登録するときに改行コードページ(CrLf・Cr・Lf)を調査して表示するかを設定します。ON/OFF にかかわらず置換を行うときに必ず調査して表示されます。 デフォルト: ON ※OFF にするとファイルリストへの登録が早くなります。
検索及び置換する文字列の入力を約10万文字に制限する	『検索と置換の文字列』、『置換の開始』、『TextSS.net で開く』画面などのテキストボックスで表示する文字数を約10万文字に制限するかを設定します。OFF にするとすべて表示できますが、大きなファイルを開くと処理速度が低下するので注意が必要です。 デフォルト: ON ※OFF にするとメモリの約2Gまで表示できますが、レスポンスが著しく低下する場合があります。
検索及び置換する文字列のTAB キーは TAB コードの入力とする	検索と置換の文字列 設定画面のテキストボックスでキーボードの『TAB』キーを押下したときに、TAB コードを入力するかフォーカスを移動するかを設定します。 ON の場合は TAB コードを入力し、OFF の場合は次の欄にフォーカスを移動します。 デフォルト: ON
置換後、結果をログファイルに出力する	置換の開始 画面で『保存する』を選択して置換を行った場合、ファイルリストとほぼ同じ形の GSV ファイルをログファイルとして出力するかを設定します。ログファイルは TextSS.net のプログラムがあるフォルダの『置換ログ』フォルダに作成されます。『保存しない』を選択した場合はログは保存されません。ログの名前は『年月日 時分秒 置換ファイルログ.log』です。 デフォルト: ON
置換後、検索と置換の条件をログファイルに出力する	置換の開始 画面で『保存する』を選択して置換を行った場合、『検索と置換のパターンリスト』の内容をテキスト形式でログファイルとして出力するかを設定します。ログファイルは TextSS.net のプログラムがあるフォルダの『置換ログ』フォルダに作成されます。『保存しない』を選択した場合はログに保存されません。ログの名前は『年月日 時分秒置換条件ログ.log』です。 デフォルト: ON
エラー発生時にログファイルに出力する	TextSS.net でエラーが発生した場合にその内容をログファイルに出力するかを設定します。ログファイルは TextSS.net のプログラムがあるフォルダの『エラーログ』フォルダに作成されます。ログの名前は『年月日.log』です。 デフォルト: ON
日本で使われるコードページのみ使用する(*次回起動有効)	TextSS.net でコードページを指定するリストボックスに日本で使われるコードページのみを表示するか、Windows で使用できるすべてのコードページを表示するかを設定します。ON の場合は日本で使われるコードページのみ表示し、OFF の場合はすべて表示されます。 変更した場合は次回 TextSS.net を起動したときから有効になります。 デフォルト: ON
ウェイトバーを閉じるときに処理の詳細時間を表示する	ファイルリスト へファイルやフォルダを登録するときや置換処理など時間がかかる処理の時に表示されるウェイトバーが閉じるときに開始時間・終了時間・経過時間を表示するかを設定します。時間を計測する場合に使用します。 デフォルト: OFF

置換結果の保存時にファイルのタイムスタンプを更新する	<p>ファイルに置換結果を保存するときにタイムスタンプ(ファイルの更新日時)を変更するかを設定します。通常は ON にしてください。何らかの理由でファイルを変更しても更新日時を変更しなくない場合に OFF にしてください。</p> <p>デフォルト: ON</p>
上級者向け参考情報は表示しない(設定画面を再度開くと有効)	<p>設定画面の『6-5. NKF32 コード判定』、『6-6. NKF32 コード変換』を表示するかを設定します。ON にすると上級者向けの参考情報が表示され、OFF にすると表示されません。特に必要なので通常は ON のまま使用してください。変更した場合は一度画面を閉じてもう一度開いたときに反映されます。</p> <p>デフォルト: ON</p>
nkf32.dll の動作チェックを行う(設定画面を再度開くと有効)	<p>設定画面を開いた時に nkf32.dll の動作チェックを行うか設定します。コードページ設定の『自動判定②』で nkf32.dll を使用する場合は ON にしてください。</p> <p>デフォルト: OFF</p>
置換結果を保存する前に元ファイルをゴミ箱に移動する	<p>置換するファイルを上書きする前にゴミ箱に移動します。元ファイルがゴミ箱に残るので置換に失敗したときはゴミ箱から復元することができます。大量のファイルを置換してゴミ箱がいっぱいになるとゴミ箱の削除に時間がかかり、ゴミ箱が削除できなくなる場合があります。その場合は、ファイルリストの『特殊操作』でゴミ箱を強制削除することができます。</p> <p>デフォルト: OFF</p>
ワイルドカードと正規表現をコンパイルしてから実行する	<p>置換方法の『文字列の置換(ワイルドカード)』と『文字列の置換(正規表現)』をコンパイルしてから実行するかを指定します。場合によっては遅くなることもあるので大量なファイルを置換する方は ON/OFF のどちらが早いかに試してみると良いと思います。環境に依存するのでどちらが早いかは不明です。</p> <p>デフォルト: ON</p>
ファイルリストの操作をマルチスレッドにする	<p>ファイルリストの操作でパソコンに搭載している CPU を1つ使うか複数使うかを設定します。複数使えば必ず早くなるわけではないので使用する環境に応じて設定してください。ON ならすべての CPU を使い、OFF なら1つの CPU だけを使います。7-4. マルチスレッド処理を参照してください。</p> <p>デフォルト: ON</p>
置換開始時に候補確認しない場合はマルチスレッドにする(制限あり)	<p>置換処理でパソコンに搭載している CPU を1つ使うか複数使うかを設定します。複数使えば必ず早くなるわけではないので使用する環境に応じて設定してください。ON ならすべての CPU を使いますが、置換候補の表示が行えず置換数の表示が行えないなど制約があります。OFF なら1つの CPU だけを使い、制約は一切ありません。7-4. マルチスレッド処理を参照してください。</p> <p>デフォルト: OFF</p>
検索と置換の文字列設定画面の左右を入れ替える	<p>検索と置換の文字列設定画面では、デフォルトでパターンリストが画面の右側にあります。これを左右入れ替えることができます。</p> <p>デフォルト: OFF</p> <p>OFF の場合</p>  <p>ON の場合</p> 

6-3.動作設定 2

機能	説明
右クリックのユーザー指定のアプリケーション1／2の設定	『ユーザー指定のアプリケーション1／2で開く』のアプリケーションを登録します。登録できるのは、拡張子 .exe のプログラムです。登録することで任意のアプリケーションでファイルを開くことができます。 デフォルト:なし
置換終了時のBGMファイルの設定	『置換完了時のBGM』として置換完了時に再生する音を選択することができます。拡張子 *.wav *.mid *.mp3 を選択できます。 デフォルト:なし
WinMerge 又は WinMergePortable の場所	『3-10. ファイルとバックアップをWinMergeで比較する』のWinMergeのプログラムがある場所を指定します。『WinMergeU.exe』又は『WinMergePortable.exe』を選択することができます。 デフォルト:なし
CSV 出力やログファイルのコードページ	置換結果ログ、置換条件ログ、エラーログ、CSV ファイル、エクスポート時に保存するファイルのコードページを選択します。シフトJISはすべてのアプリケーションで開けますが、置換条件で特殊な文字を使っていると文字化けします。UTF-8 などの場合は特殊な文字も表示できますが、開くアプリケーションが対応していなければ文字化けが発生します。 ※エラーログは1日分のエラーを同じファイルに保存するので途中で変更するとその日のエラーログに限り文字化けが発生します。 デフォルト:Shift_jis (932)
ファイルリストのダブルクリックの動作	ファイルリスト をダブルクリックしたときの動作を設定します。詳しくはファイルリストの『3-4. ポップアップメニュー』を参照してください。 デフォルト:TextSS.net で開く
操作履歴保持数	検索と置換のパターンリスト で『元に戻す』を行える回数を示します。ここで設定した回数だけ履歴を保持します。 デフォルト:16
プレビュー時のブラウザエミュレーション設定	ファイルをプレビューするとき、Internet Explorer のエミュレーションのバージョンを指定しています。TextSS.net Ver 5.21 までは IE7 相当で動作していました。Ver 5.23 から IE7 から IE11 までの各バージョンを指定できます。 デフォルト:IE11 (Edge モード)

6-4.除外フォルダとファイル

ファイルリストにファイルを登録するときに除外するフォルダとファイルを登録します。ここで登録したフォルダやファイルは『フォルダ』ボタン、またはドラッグ & ドロップでフォルダを登録するときに除外されます。ログファイルやデータファイルなど、何らかの理由で置換させたくないフォルダやファイルを登録しておくと便利です。なお、『ファイル』ボタンまたはドラッグ & ドロップでファイルを登録したときは除外されません。『フォルダ』ボタンについては意図しないファイルの登録を阻止し、『ファイル』ボタンは意図的に追加したいという意味で動作を分けています。

ファイルリストの右上の『除外フォルダとファイルを有効にする』を OFF にすると、ここで登録したフォルダやファイルを一時的に無視することができます。また、ここで登録した除外フォルダとファイルは『特殊操作』のフォルダ追加時も除外します。

6-5.NKF32 コード判定

nkf32.dll のコードページの判定機能の動作状況を表示しています。どんなテストを行い、その結果がどうなのかを参考表示しています。TextSS.net が64ビットで動作しているときは使用できないので『無効』になります。

※この画面は『[6-2. 動作設定1 詳細設定](#)』の『上級者向け参考情報は表示しない』を OFF にしないと表示されません。

※TextSS.net は独自のコードページの判定機能を搭載しています。NKF32 は旧 TextSS の互換機能として搭載しているので、将来廃止する可能性があります。

6-6.NKF32 コード変換

nkk32.dll のコードページの変換機能の動作状況を表示しています。TextSS.net が64ビットで動作しているときは使用できないので『無効』になります。どんなテストを行い、その結果がどうなのかを参考表示しています。TextSS.net では nkf32.dll をコード判定のみに使用し、変換は行いません。基本的に『停止』で問題ありません。付属の nkk32.dll のバージョンの問題かも知れませんが、UTF-16 で全角¥が半角¥に変換されてしまうので『停止』になっています。

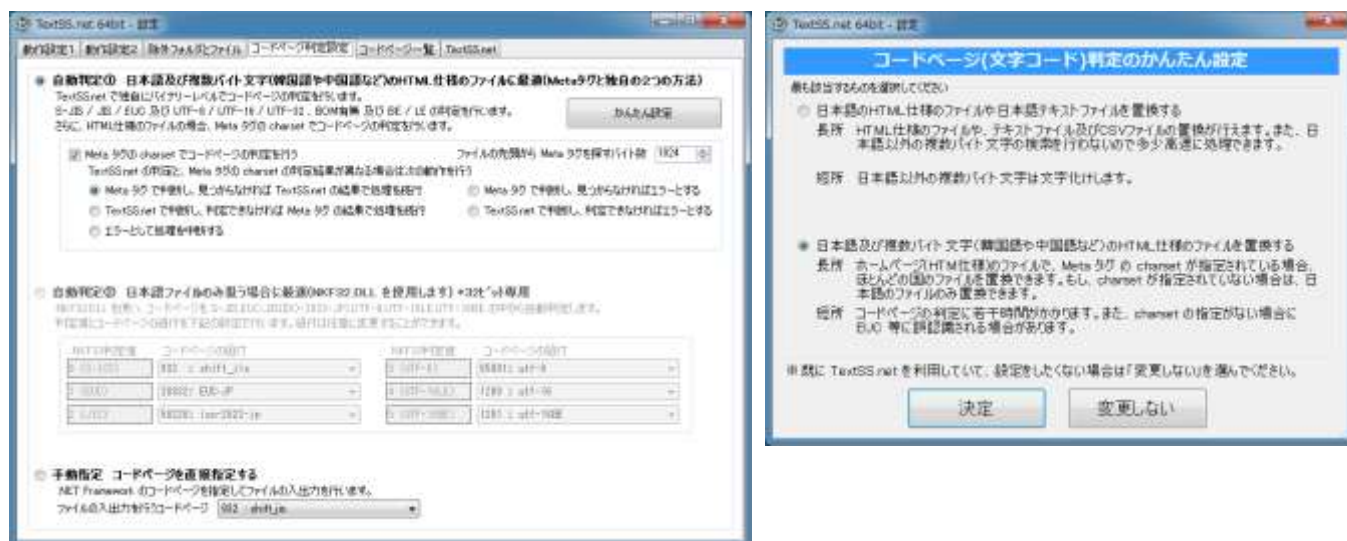
※この画面は『[6-2. 動作設定1 詳細設定](#)』の『上級者向け参考情報は表示しない』を OFF にしないと表示されません。

※TextSS.net は独自のコードページの判定機能を搭載しています。NKF32 は旧 TextSS の互換機能として搭載しているので、将来廃止する可能性があります。

6-7.コードページ設定

TextSS.net でファイルのコードページを判定する方法を設定します。この設定は TextSS.net の32ビットと64ビットでそれぞれ保存できるので、32ビットは『自動判定②』、64ビットは『自動判定①』のように保存することができます。動作ビットの設定として保存されるのでそれぞれ起動して設定してください。

また、簡単設定を使うと自動的に適切な設定を行える機能を搭載しています。



※「かんたん設定」を利用すれば左側画面は自動設定されます。

機能	説明
自動判定① (デフォルト)	<p>Meta タグと TextSS.net のどちらか又は両方でコードページを判定します。</p> <p>Meta タグの判定 HTML の Meta タグ の charset で判定を行います。ほとんどの言語の判定が行えますが、テキストファイルなど、Meta タグ の指定が無いものは判定が行えません。</p> <p>TextSS.net の判定 日本語の S-JIS、JIS、EUC、UTF-8/16/32 の判定が可能です。</p> <p>どちらの場合も、判定できない場合は『判定不能』と表示されます。</p> <p>Meta タグの charset でコードページの判定を行う ON : この機能と、下記オプションの設定を有効にします。 OFF: この機能を無効にし、TextSS.net だけは判定を行います。</p> <p>ファイルの先頭から Meta タグを探すバイト数 先頭から指定したバイト数までの中で Meta タグを探します。大きすぎると時間がかかり、小さすぎると Meta タグが読み込まれない場合があります。</p> <p>TextSS.net の判定と、Meta タグの charset の判定結果が異なる場合は次の動作を行う Meta タグ で判断し、見つからなければ TextSS.net の結果で処理を続行 Meta タグ で判断し、見つからなければエラーとする TextSS.net で判断し、判定できなければ Meta タグ の結果で処理を続行 TextSS.net で判断し、判定できなければエラーとする エラーとして処理を中断する ※上記から処理を選択してください。</p>

機能	説明
自動判定②	<p>古くから存在する『ネットワーク用漢字コード変換フィルタ』の32ビット版の nkf32.dll でコードページを判定します。速度も速く精度もかなり高いです。S-JIS、EUC、JIS、UTF-8、UTF16 の判定が可能です。コードページの性質上、完璧な判定はできませんのでご了承ください。</p> <p>※TextSS.net が32ビットで動作している場合に限り、使用可能です。</p> <p>自動判定② の NKf32.DLL の判定値とコードページの変換</p> <p>nkf32.dll で判定を行うと判定値として 0 から 5 の数字が返されます。その判定値とコードページを結びつける設定を行います。通常は変更する必要はありませんが、EUC や JIS はコードページに複数存在するので状況に応じて変更してください。</p> <p>※コードページに関する詳しい知識のある方の為の設定です。</p>
手動指定	<p>コードページを自動判定せず、手動で指定します。自動判定できないコードページを使用している場合に直接コードページを指定することができます。</p>

6-8.コードページ一覧

お使いの Windows で使用可能なコードページの一覧を参考情報として表示しています。「クリップボードへコピー」ボタンを使うと、コードページの一覧をタブ区切りでコピーし、エクセルに貼り付けることができます。

6-9.TextSS.net

TextSS.net のバージョン情報、初めて起動した日時、使用回数を参考情報として表示します。また、TextSS.net に付属する『Windows 用 ネットワーク用漢字コード変換フィルタ nkf32.dll』の開発プロジェクト及び配布者のホームページを紹介しています。さらに、開発言語である Microsoft Visual Basic に関する技術情報を参考にさせていただきましたホームページを紹介しています。

[nkf Network Kanji Filter](#)

「nkf Network Kanji Filter」プロジェクトでメンテナンスされている漢字コード変換プログラム nkf の技術を利用させていただいております。

[VA007219 氏](#)

「nkf Network Kanji Filter」プロジェクトで配布されている nkf を、VA007219 氏がビルドと DLL 化して配布されているものを利用させていただいております。

[DOBON.NET プログラミング道](#)

VB.NET におけるコードページの判別方法や正規表現の操作を参照にさせていただきました。説明を一部引用させていただきました。

[C# と VB.NET の入門サイト](#)

VB.NET における各種オブジェクトの操作方法を参考にさせていただきました。

[全ては時の中に...](#)

VB.NET における各種オブジェクトの操作方法を参考にさせていただきました。

7.補足説明

7-1.コマンドラインオプション

TextSS.net のコマンドラインオプションの説明です。ここでは、ショートカットのプロパティで指定する方法を説明します。

パラメータ	説明
第1	フォルダを指定します。複数フォルダやファイルの指定はできません。 例 "E:¥HomePage"
第2	拡張子を指定します。複数指定する場合はセミコロン ; で区切ります。省略した場合は前回画面に表示されていた拡張子になります。 例 "*.html;*.htm"

※パラメータはダブルコーテーション " で囲みます。

ショートカットにパラメータを指定する場合次のようになります。

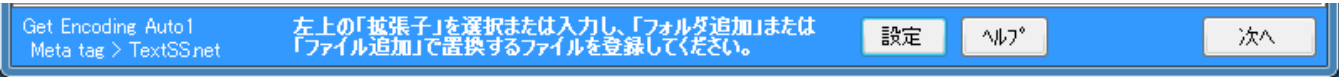
リンク先 "D:¥TextSS.net¥TextSS.net.exe" "E:¥HomePage" "*.html;*.htm"

上記は TextSS.net の場所、ホームページフォルダ、拡張子を指定した例です。

7-2.TextSS.net バー

『ファイルリスト』、『検索と置換の文字列』、『置換の開始』の3つ画面の下部に常に表示されているバーのことを示しています。コードページの判定方法や各種メッセージ及び操作ボタンがあります。

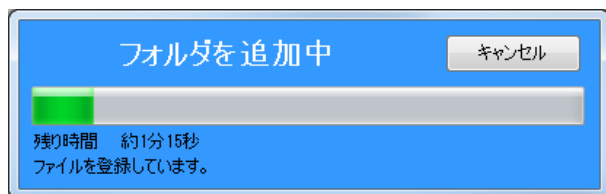
※画面により表示されるボタンは異なります。



機能	説明
Get Encoding	設定画面の『6-7. コードページ設定』の状態を表示します。 Get Encoding Auto1 『自動判定①』を選択していることを示します。また、次の表記でオプションを示します。 Meta tag > TextSS.net : Meta タグで判定し、判定できなければ TextSS.net で判定 Meta tag Only : Meta タグで判定し、判定できなければエラー TextSS.net Only : TextSS.net で判定し、判定できなければエラー TextSS.net > Meta tag : TextSS.net で判定し、判定できなければ Meta タグで判定 TextSS.net = Meta tag : TextSS.net と Meta タグの判定が同じなら成功、異なればエラー Get Encoding Auto2 NKF32.DLL 『自動判定②』を選択していることを示します。 Manual Encoding (xxx) yyy 『手動指定』を選択していることを示します。xxx にコードページ番号、yyy に名称を表示します。
メッセージ	何をすればよいのか、現在どんな状況なのかを表示します。
設定	設定画面を表示します。
ヘルプ	ヘルプ(今見ているもの)を表示します。
戻る	前の画面に戻ります。
次へ	次の画面に進みます。
開始	置換を開始します。

7-3.TextSS.net ウェイトバー

時間がかかる処理で表示されます。進捗や残り時間の表示、処理のキャンセルが行えます。



残り時間

その処理の完了までの残り時間を示します。あくまで参考値なので誤差もかなりあります。

キャンセル

処理のキャンセルを行うことができます。ただし、本当にキャンセルしなければならないときにだけ使用してください。なお、置換中は反応が悪いので連打しないと反応しない場合があります。

バックアップや復元の時にキャンセルするとファイルリストの途中まで復元され、キャンセル以降が復元されないなど中途半端な状態になります。置換処理で保存する状態でキャンセルすると途中まで置換が行われて保存された状態になるので注意してください。また、開始直後や不定期に行われるメモリ確保処理など、Windows からの応答を待っている状態ではマウスカースールが待機状態になり、キャンセルボタンの表示が消えます。キャンセルボタンが表示されているときのみキャンセルすることができます。

キャンセルする場合は、必ず『マルチスレッド』の説明を参照してください。マルチスレッドではファイルリストの処理が順不同に行われるので注意が必要です。

スレッドマーク

ウェイトバーの右下に表示されるスレッドマークで、シングルスレッドとマルチスレッドがどのような状態で動作しているのかを確認することができます。

スレッドマーク	説明
	ユーザーによるシングルスレッド・マルチスレッドの指定にかかわらず、シングルスレッドで動作していることを示します。シングルスレッドで処理する必要がある場合に表示されます。
	ユーザーによるマルチスレッドの指定を無視してシングルスレッドで動作していることを示します。 次の条件に当てはまる場合に表示されます。 ファイルリスト ・搭載 CPU が1つの場合。 ・コードページの判定を『自動判定②』にしている場合。 置換処理の場合 ・搭載 CPU が1つの場合。 ・コードページの判定を『自動判定②』にしている場合。 ・置換開始時に『置換候補の確認』を『表示する』にした場合。
	マルチスレッドで動作していることを示します。搭載 CPU の数を表示します。

7-4. マルチスレッド処理（ファイルリストと置換処理）

TextSS.net はファイルリストの操作と置換処理においてマルチスレッド（複数 CPU による分散処理）に対応していますが、ソフトウェアの性質上あまり効果はありません。また、ファイルリストの操作はデフォルトで『ON』、置換処理はデフォルト『OFF』になっています。[『6-2. 動作設定1 詳細設定』](#)でマルチスレッドを ON/OFF することができます。

※シングルスレッドとは、1つの CPU で集中して処理を行うという意味です。

※マルチスレッドとは、複数 CPU による分散処理を行うという意味です。

機能	説明
ファイルリストの操作	<p>マルチスレッドはデフォルトで『ON』になっています。</p> <p>マルチスレッドでの制限事項</p> <ul style="list-style-type: none">・ファイルの初回登録は場合によってはシングルスレッドより遅くなる場合があります。 <p>ただし、次の条件に当てはまる場合はシングルスレッドで動作します。</p> <ul style="list-style-type: none">・搭載 CPU が1つの場合。・コードページの判定を『自動判定②』にしている場合。
置換の処理	<p>マルチスレッドはデフォルトで『OFF』になっています。</p> <p>マルチスレッドでの制限事項</p> <ul style="list-style-type: none">・『置換候補の確認』が行えません。画面確認無しで一気に置換する場合にマルチスレッドで処理できます。・置換の詳細結果で置換数の表示が行えません。『成功』と表示されます。 シングルスレッドの場合は『xxx 箇所』のように表示されます。 <p>ただし、次の条件に当てはまる場合はシングルスレッドで動作します。</p> <ul style="list-style-type: none">・搭載 CPU が1つの場合。・コードページの判定を『自動判定②』にしている場合。・置換開始時に『置換候補の確認』を『表示する』にした場合。

※シングルスレッドとマルチスレッドのどちらで動作しているかは『ウェイトバー』で確認することができます。

7-5. マルチスレッド処理（処理の実行順）

シングルスレッドの場合はファイルリストの上から下に向かって実行されますが、マルチスレッドの場合は順不同に実行されます。すべての処理が正常に完了した場合は最終的な結果はまったく同じなので注意する必要はありません。ウェイトバーの『キャンセル』ボタンで処理を中断するときは注意が必要です。

キャンセルしたとき、マルチスレッドでは順不同で処理が行われるので、ファイルリストの上のほうだけを確認せず、必ず最後まで確認してください。

シングルスレッドの場合は上から下に処理が行われます。

No	ファイル名	ステータス	バックアップ日時	コードページ
1	D:\マイ プログラム\TextSS.net\#リリ...	バックアップ成功	2012/07/15 15:47:56	shift_jis (932)
2	D:\マイ プログラム\TextSS.net\#リリ...	バックアップ成功	2012/07/15 15:47:56	shift_jis (932)
3	D:\マイ プログラム\TextSS.net\#リリ...	バックアップ成功	2012/07/15 15:47:56	shift_jis (932)
4	D:\マイ プログラム\TextSS.net\#リリ...	バックアップ成功	2012/07/15 15:47:56	shift_jis (932)
5	D:\マイ プログラム\TextSS.net\#リリ...	バックアップ成功	2012/07/15 15:47:56	shift_jis (932)
6	D:\マイ プログラム\TextSS.net\#リリ...	バックアップ成功	2012/07/15 15:47:56	shift_jis (932)
7	D:\マイ プログラム\TextSS.net\#リリ...	バックアップ成功	2012/07/15 15:47:56	shift_jis (932)
8	D:\マイ プログラム\TextSS.net\#リリ...			shift_jis (932)
9	D:\マイ プログラム\TextSS.net\#リリ...			shift_jis (932)
10	D:\マイ プログラム\TextSS.net\#リリ...			shift_jis (932)
11	D:\マイ プログラム\TextSS.net\#リリ...			shift_jis (932)
12	D:\マイ プログラム\TextSS.net\#リリ...			shift_jis (932)
13	D:\マイ プログラム\TextSS.net\#リリ...			shift_jis (932)
14	D:\マイ プログラム\TextSS.net\#リリ...			shift_jis (932)
15	D:\マイ プログラム\TextSS.net\#リリ...			shift_jis (932)
16	D:\マイ プログラム\TextSS.net\#リリ...			shift_jis (932)
17	D:\マイ プログラム\TextSS.net\#リリ...			shift_jis (932)
18	D:\マイ プログラム\TextSS.net\#リリ...			shift_jis (932)

マルチスレッドの場合は順不同に処理が行われます。

No	ファイル名	ステータス	バックアップ日時	コードページ
1	D:\マイ プログラム\TextSS.net\#リリ...	バックアップ成功	2012/07/15 15:47:56	shift_jis (932)
2	D:\マイ プログラム\TextSS.net\#リリ...	バックアップ成功	2012/07/15 15:47:56	shift_jis (932)
3	D:\マイ プログラム\TextSS.net\#リリ...			shift_jis (932)
4	D:\マイ プログラム\TextSS.net\#リリ...			shift_jis (932)
5	D:\マイ プログラム\TextSS.net\#リリ...	バックアップ成功	2012/07/15 15:47:56	shift_jis (932)
6	D:\マイ プログラム\TextSS.net\#リリ...	バックアップ成功	2012/07/15 15:47:56	shift_jis (932)
7	D:\マイ プログラム\TextSS.net\#リリ...			shift_jis (932)
8	D:\マイ プログラム\TextSS.net\#リリ...			shift_jis (932)
9	D:\マイ プログラム\TextSS.net\#リリ...	バックアップ成功	2012/07/15 15:47:56	shift_jis (932)
10	D:\マイ プログラム\TextSS.net\#リリ...	バックアップ成功	2012/07/15 15:47:56	shift_jis (932)
11	D:\マイ プログラム\TextSS.net\#リリ...			shift_jis (932)
12	D:\マイ プログラム\TextSS.net\#リリ...			shift_jis (932)
13	D:\マイ プログラム\TextSS.net\#リリ...	バックアップ成功	2012/07/15 15:47:56	shift_jis (932)
14	D:\マイ プログラム\TextSS.net\#リリ...	バックアップ成功	2012/07/15 15:47:56	shift_jis (932)
15	D:\マイ プログラム\TextSS.net\#リリ...			shift_jis (932)
16	D:\マイ プログラム\TextSS.net\#リリ...			shift_jis (932)
17	D:\マイ プログラム\TextSS.net\#リリ...	バックアップ成功	2012/07/15 15:47:56	shift_jis (932)
18	D:\マイ プログラム\TextSS.net\#リリ...	バックアップ成功	2012/07/15 15:47:56	shift_jis (932)

マルチスレッドが必ず早いわけではありません

マルチスレッドは計算処理を分算する場合に大きな効果を発揮する反面、ディスクや画面など共通リソースの操作について制限が多く、あまりその効果を発揮できません。TextSS.net はディスクアクセスが多く、置換結果を詳細に表示するので画面の更新頻度も多くなるのであまりマルチスレッドの効果は発揮できません。ファイルリストに同じフォルダを登録するとき、1回目は遅くなる場合がありますが、2回目は2倍程度早く処理が完了します(※)。置換処理は置換箇所を数字表示できない制約がありますが、平均的に30%程度早くなるようです(※)。使い方によって大きく変わるのでデフォルト設定のまま使用することをお勧めします。

※お使いのパソコンの性能やOSなどに大きく依存するため、参考値としてください。

8. サポート

TextSS.net はフリーソフトウェアです。ただし著作権は Yamashita-Y が所有します。営利・非営利を問わず、誰でも無料で使用できます。雑誌等で紹介しても連絡は不要です。

問い合わせ先

TextSS.net の不具合を発見した場合は、できる限り、詳しくご連絡をお願いします(” どのような操作をしたら、どういったエラーが出た ” 等)。また、こういった機能が欲しい、などの要望も待っています。ただし、フリーソフトという性質上、すべての不具合や要望には対応できない場合がありますがご了承ください。

使い方については本誌または TextSS.net を紹介してくれているサイトを参照してください。フリーソフトという性質上、操作説明はメールでは行っておりません。

メールアドレス	support@textss.sakura.ne.jp
公式サイトURL	https://textss.sakura.ne.jp/

※公式サイトでは、TextSS.net の改版履歴やQ & Aを公開しています。

バージョンアップについて

フリーソフトという性質上、長らくバージョンアップできない場合があります。また、予告なしに公式サイトの閉鎖や自動アップデートの配信を停止する場合があります。この場合は、Vector を参照してください。TextSS.net は Vector でも公開しています。

Vector で公開している TextSS.net のライブラリ

<https://www.vector.co.jp/soft/winnt/util/se493374.html>

著作権関連に関するよくある問い合わせ

TextSS.net はフリーソフトウェアですが、著作権は Yamashita-Y が所有します。この表現に関連していると思いますが、基本的に連絡なしに下記は自由に行って構いません。

- ・自分のホームページでハードコピーを使用した機能紹介や操作説明。
- ・企業で営利目的での使用。
- ・企業で独自の運用マニュアルにハードコピーを使用し、企業内での配布。
- ・雑誌などでの紹介や配布。

上記は自由に行ってください。

下記は禁止事項です。

- ・逆コンパイルなどでプログラムを改良及びその配布。
- ・付属するドキュメントの改良及びその配布。

上記は TextSS.net 及び 旧版 TextSS の両方に該当します。